

## 2014 年度 研究所・センター事業報告書

研究所・センター名	人間科学研究所
研究所・センター長名	松田 亮三

### I. 研究成果の概要

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2014 年度重点プロジェクト申請調査に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。

#### 1. 全所的プロジェクトの推進

対人援助に関わる戦略的研究として全所的プロジェクト「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究」を推進した。同プロジェクトは文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の 2 年目にあたり、連携する研究拠点（生存学研究センター・R-GIRO 法心理・司法臨床センター等）と協力しつつ、大規模な公開企画を複数回開催した。

2015 年 1 月には、同プロジェクトの公開研究会（兼研究所年次総会）を開催し、100 人近くが来場する大規模な企画となった。同研究会では、昨年の約 2 倍にあたる 23 件のポスター発表も行き、専門研究者や大学院生等の若手研究者からも積極的な参画があった。なお、プロジェクトの研究成果として、シリーズ刊行物『インクルーシブ社会研究』を昨年に引き続き今年度は 5 冊刊行し、ホームページ上でも公開している。

#### 2. 学術誌の刊行・メディア媒体を使用した発信

『立命館人間科学研究』を 2 号刊行した。掲載論文 14 本のうち、8 本は外部査読者を含む 2 名以上の査読を経たものであり、9 本の論文の筆頭著者は若手研究者または大学院生であった。また研究成果の社会的発信を促進するため、日英両言語により、イベント案内や「人間科学のフロント」（研究成果発信ページ）等、ホームページ上で積極的な情報発信を行った。また、前年度に策定した「ソーシャルメディア運用ガイドライン」に従い、Twitter・Facebook を活用した情報発信を行った。これらの結果もあり、ホームページへのアクセス数は前年比約 130%となった。

#### 3. 研究所セミナーと公募型研究助成の実施

海外を含む研究所内外の研究者と濃厚な研究交流の場を設け、所内の各プロジェクトの研究活動の活性化や、新たな研究プロジェクトの展開を促すことを目的として、昨年度に引き続き研究所主催の研究セミナー「アドバンスト研究セミナー」を 5 回開催した。また、これも昨年度から開始した、研究所重点プログラムの資金を活用した競争的研究資金「萌芽的プロジェクト研究助成プログラム」は、10 件の応募に対し 5 件を採択した。うち 2 件は若手研究者を代表とするものであり、他の 3 件も共同研究者に若手研究者を含むものである。多くが次年度への継続プロジェクトとなるなど、新たなプロジェクトのスタート資金となった。

#### 4. その他研究の展開

全所的プロジェクト以外に、35 の個別プロジェクトがそれぞれ多様な進展を見せた。例えば、「多言語 DAISY テキストによる外国人児童の学習支援に関する研究」は、連携研究者が獲得した外部資金を元に 7 月に大規模なシンポジウム「外国にルーツをもつ子どもとデジタル教科書のあり方を考える～ICT を活用した学習支援と教育保障～」を行った。「描画検査の自動採点システム・自動診断システムの構築プロジェクト」は、構築した海外ネットワークを活用してワークショップ「コンピュータを用いた描画プロセスの定量的分析」を 9 月に開催した。「男性介護研究会」は、大規模なシンポジウム「ケアメンサミット」を 12 月、3 月と 2 回開催し、当事者同士の情報交換や研究交流を大いに促進した。「発達障害児・家族プロジェクト」は海外との共同研究のため大型外部資金に申請した。「絵本プロジェクト」は、一般向けイベントを複数回実施し、京阪電気鉄道株式会社との連携に向けての打合せも進展した。「医療福祉における利用者エンパワメント研究会」「比較ケア制度・政策プロジェクト」などのプロジェクトは、外部講師や内部の若手研究者による研究会を継続的に行った。

## II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2015年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	松田亮三	産業社会学部	教授
運営委員	望月昭	文学部	教授
	土田宣明	文学部	教授
	谷晋二	文学部	教授
	矢藤優子	文学部	准教授
	村本邦子	応用人間科学研究科	教授
	増田梨花	応用人間科学研究科	教授
	中村正	産業社会学部	教授
	石倉康次	産業社会学部	教授
	山本耕平	産業社会学部	教授
	天田城介	先端総合学術研究科	教授
	松原洋子	先端総合学術研究科	教授
	井上彰	先端総合学術研究科	准教授
	浅田和茂	法務研究科	教授
	稲葉光行	政策科学部	教授
所属教員(運営委員以外)	荒木穂積	産業社会学部	教授
	小澤亘	産業社会学部	教授
	竹内謙彰	産業社会学部	教授
	津止正敏	産業社会学部	教授
	櫻谷真理子	産業社会学部	教授
	秋葉 武	産業社会学部	教授
	野田正人	産業社会学部	教授
	峰島厚	産業社会学部	教授
	丸山里美	産業社会学部	准教授
	斎藤真緒	産業社会学部	准教授
	崎山治男	産業社会学部	准教授
	玉置えみ	産業社会学部	助教
	サトウタツヤ	文学部	教授
	春日井敏之	文学部	教授
	星野祐司	文学部	教授
	東山篤規	文学部	教授
	八木保樹	文学部	教授
	服部雅史	文学部	教授
	北岡明佳	文学部	教授
	廣井亮一	文学部	教授
	山本博樹	文学部	教授

	中鹿直樹	文学部	准教授	
	宇都宮博	文学部	准教授	
	岡本直子	文学部	准教授	
	若林宏輔	文学部	助教	
	吉田甫	文学部	特任教授	
	団士郎	応用人間科学研究科	教授	
	中村隆一	応用人間科学研究科	特任教授	
	吉沅洪	応用人間科学研究科	教授	
	立岩真也	先端総合学術研究科	教授	
	小泉義之	先端総合学術研究科	教授	
	松本克美	法務研究科	教授	
	篠田博之	情報理工学部	教授	
	川那部隆司	教育開発推進機構	准教授	
	朝野浩	教職教育推進機構	教授	
	安田裕子	R-GIRO	特別招聘准教授	
	村上潔	衣笠総合研究機構	特別招聘准教授	
	渡辺克典	衣笠総合研究機構	特別招聘准教授	
	専門研究員・研究員	滑田明暢	R-GIRO / 滋賀大学	専門研究員 / 特任講師
		斉藤進也	R-GIRO	専門研究員
木戸彩恵		R-GIRO	専門研究員	
金成恩		R-GIRO	専門研究員	
徳永留美		R-GIRO	専門研究員	
木戸彩恵		R-GIRO	専門研究員	
中妻拓也		R-GIRO	研究員	
由井秀樹		衣笠総合研究機構	専門研究員	
福田茉莉		衣笠総合研究機構	専門研究員	
クァク・ジョンナン		衣笠総合研究機構	専門研究員	
橋口昌治		衣笠総合研究機構	専門研究員	
博士後期課程院生・一貫制博士課程 3 回生以上在籍院生	廣瀬翔平	文学研究科	博士課程後期課程	
	神崎真実	文学研究科	博士課程後期課程	
	春日秀朗	文学研究科	博士課程後期課程	
	朝山洋樹	社会学研究科	博士課程後期課程	
	富井奈菜実	社会学研究科	博士課程後期課程	
	小嶋理恵子	社会学研究科	博士課程後期課程	
	金森京子	社会学研究科	博士課程後期課程	
	目黒（野村）朋	社会学研究科	博士課程後期課程	
	江頭典江	社会学研究科	博士課程後期課程	
	深谷弘和	社会学研究科	博士課程後期課程	
	岡部茜	社会学研究科	博士課程後期課程	
	松元佑	社会学研究科	博士課程後期課程	
	山中恵利子	社会学研究科	博士課程後期課程	
	池田さおり	社会学研究科	博士課程後期課程	

学内の若手研究者

その他(立命館大学の非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)	石川由美	社会学研究科	博士課程後期課程
	黒川奈緒	社会学研究科	博士課程後期課程
	村上嵩至	文学部	助手
	都賀美有紀	文学部	契約職員
	織田 涼	文学部	契約職員
	山崎 校	文学部	非常勤講師
	破田野智美	文学部	非常勤講師
	對梨成一	文学部	非常勤講師
	破田野智巳	文学部	非常勤講師
	上村晃弘	文学部	非常勤講師
	山田早紀	文学研究科	研究生
	赤阪麻由	文学研究科	研究生
	川本静香	文学研究科	研究生
	松原実香	文学研究科	博士課程前期課程
	中田友貴	文学研究科	博士課程前期課程
	田 一葦	文学研究科	博士課程前期課程
	谷上夏美	文学研究科	博士課程前期課程
	小島淳一	文学研究科	博士課程前期課程
	東向久美子	文学研究科	博士課程前期課程
	西田勇樹	文学研究科	博士課程前期課程
	菊池祥子	文学研究科	博士課程前期課程
	兵頭宏美	社会学研究科	博士課程前期課程
	浦谷彩加	社会学研究科	博士課程前期課程
	許 昕	社会学研究科	博士課程前期課程
	木下大輔	応用人間科学研究科	修士課程
	渡辺舞	応用人間科学研究科	修士課程
	立花周太	応用人間科学研究科	修士課程
	小島遼	応用人間科学研究科	修士課程
	小林里帆	応用人間科学研究科	修士課程
	上田恵理子	応用人間科学研究科	修士課程
	古田絵理	応用人間科学研究科	修士課程
	中川万幾子	応用人間科学研究科	修士課程
	重富紗希	応用人間科学研究科	修士課程
	小島拓	応用人間科学研究科	修士課程
	藤原さつき	応用人間科学研究科	修士課程
	馬潔	応用人間科学研究科	修士課程
	劉爽朗	応用人間科学研究科	修士課程
	横田聖子	応用人間科学研究科	修士課程
	三野範子	応用人間科学研究科	修士課程
	中川 あずさ	応用人間科学研究科	修士課程
妻崎希実	応用人間科学研究科	修士課程	
磯井知子	応用人間科学研究科	修士課程	
藤井彩瑚	応用人間科学研究科	修士課程	
吉田史明	文学研究科	研修生	

	吉尾玲美	文学部	学士課程
	下本由香里	文学部	学士課程
客員協力研究員	石川 眞理子	龍谷大学社会学部	非常勤講師
	上田 陽子	ファーストステップ・ジョブグループ	代表
	大川 一郎	筑波大学大学院人間総合科学研究科	教授
	瀧脇 真紀	なし	なし
	高橋 伸子	龍谷大学	非常勤講師
	土田 菜穂	京都市北総合支援学校	特別非常勤講師
	孫琴	なし	なし
	棟居 徳子	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部社会福祉学科	専任講師
	坂口 佳江	宝塚大学看護学部	非常勤講師
	松島 京	近代姫路大学教育学部	准教授
	金山 好美	立命館大学心理教育・教育相談センター	カウンセラー
	多田 美香里	関西福祉科学大学社会福祉学部	准教授
	高山 一夫	京都橘大学現代ビジネス学部	准教授
	松島明日香	奈良教育大学	特任講師
	村上 慎司	公益財団法人医療科学研究所	リサーチフェロー
	荒木 美知子	大阪女子短期大学幼児教育科	准教授
	荒井 庸子	浜松学院大学現代コミュニケーション学部	講師
	北原靖子	川村学園女子大学	教授
	乾 明紀	京都光華女子大学キャリアセンター	准教授
	鈴木史織	行動・教育コンサルティングBEC	行動セラピスト
	内田晴子	京都文教大学人間学部	非常勤講師
	松下健	東京海洋大学	講師
	古川心	立命館大学心理・教育相談センター	カウンセラー
	宮裕昭	市立福知山市民病院	主任臨床心理士
	井上洋平	福山市立大学教育学部	准教授
	村本詔司	神戸市外国語大学	名誉教授
	破田野智美	文学部	非常勤講師
	對梨成一	文学部	非常勤講師
	春日彩花	大阪大学人間科学研究科	博士課程後期課程
	藤戸麻美	京都大学文学研究科	博士課程後期課程
	鏡原崇史	広島大学教育学研究科	博士課程後期課程
	安田祥子	京田辺市児童館	発達相談員
	荒木久理子	花ノ木医療福祉センター	心理判定員
山路美波	ソーシャルケアセンター	心理士	
Castoldi Valeria	Bicocca University	PhD Student	

	荒木晃子	NPO 法人卵子提供登録支援団体 OD-NET	理事
	山崎優子	R-GIRO	客員研究員
学外研究機関所属研究者 (他大学等で非常勤講師を担当している者を含む)	小西祥子	東京大学医学部	助教
	Lin Shuzhen	筑波大学大学院人間総合科学研究科	博士課程後期課程
	北村真也	京都府教育委員会認定フリースクール「アウラ学びの森知誠館」	代表
	荻原園子	龍谷大学大学院	博士課程後期課程
	中村嘉宏	有馬病院	心理職員
	佐藤洋作	NPO 法人文化学習協同ネットワーク	代表理事
	野中康弘	社会福祉法人一麦会	事務局次長
	古庄健	全国若者支援連絡会議	なし
	片桐直哉	京都市	市会議員
	吉村昌子	大阪市	常勤嘱託講師
	小田博子	亀岡市	公平委員・亀岡市 人権教育啓発推進 要員
研究所・センター構成員 計 172 名 (うち学内の若手研究者 計 27 名)			

### III. 研究業績

本欄には、「II. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2015年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	稲葉光行・松田亮三	『インクルーシブ社会研究』3 対人支援における大学と社会実践の連携	編	2014年10月	人間科学研究所	稲葉光行・松田亮三	
2	稲葉光行・松田亮三	『インクルーシブ社会研究』4 Cooperation between Academia and Social Practices in Human Services	編	2014年10月	人間科学研究所	稲葉光行・松田亮三	
3	渡辺克典	『インクルーシブ社会研究』5 生存をめぐる制度・政策 連続セミナー「障害/社会」	編	2015年3月	人間科学研究所	渡辺克典	
4	津止正敏	『インクルーシブ社会研究』6 男性介護者支援の論理と根拠—ケアが拓くコミュニティ—	編	2015年3月	人間科学研究所	津止正敏	
5	稲葉光行・若林宏輔	『インクルーシブ社会研究』7 取調べと可視化—新しい時代の取調べ技法・記録化と人間科学—	編	2015年3月	人間科学研究所	稲葉光行・若林宏輔	
6	中村正	離婚紛争の合意による解決の支援と子どもの意思の尊重	分担執筆	2014年10月	日本加除出版	二宮周平ほか	120-147
7	大谷いづみ	「安楽死・尊厳死—少子高齢社会における「死に方/死なせ方」の政治学」日本老年行動科学会監修・大川一郎編集代表『高齢者のこころとからだ事典』	分担執筆	2014年9月	中央法規出版		542-543
8	秋葉武	協同組合 未来への選択	共著	2014年5月	日本経済評論社	中川雄一郎・杉本貴志	79-100
9	石倉康次	『現代社会と福祉』「第3章 現代社会における社会福祉の理念」「第4章 社会保障・社会福祉の制度と政策」	共著	2015年3月	東山書房	児島亜紀子、伊藤文人、坂本毅啓他	94-106, 108-129

10	サトウタツヤ	心理学スタンダード—学問する楽しさを知る	編著	2014年4月	ミネルヴァ書房	サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明(編)	
11	サトウタツヤ	司法臨床としての情状心理鑑定	分担執筆	2014年8月	日弁連研究叢書 現代法律実務の諸問題 平成25年度研修版	サトウタツヤ	909-927
12	サトウタツヤ	傷痍軍人・リハビリテーション関係資料集成 第1-2巻(制度・施策/医療・教育編)	共編著	2014年12月	六花出版	サトウタツヤ, 郡司淳 編	
13	サトウタツヤ	ワードマップ TEA 理論編(副題: 複線径路等至性アプローチの基礎を学ぶ)	共編著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ(編)	179
14	サトウタツヤ	ワードマップ TEA 実践編(副題 複線径路等至性アプローチを活用する)	共編著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ	246
15	宇都宮博	日本の夫婦—パートナーとやっっていく幸せと葛藤—(担当: 高齢期の夫婦関係と幸福感)	分担執筆	2014年4月	金子書房	柏木恵子・平木典子(編)	
16	宇都宮博	心理学スタンダード(担当: 人間関係—家族・友人・恋人を中心として—)	分担執筆	2014年4月	ミネルヴァ書房	サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明(編)	
17	岡本直子	心理学スタンダード—学問する楽しさを知る—	分担執筆	2014年4月	ミネルヴァ書房	サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明(編著)	3-15
18	土田宣明	心理学スタンダード	共編著	2014年4月	ミネルヴァ書房	サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明	65-77
19	土田宣明	高齢者のこころとからだ事典(日本老年行動科学会監修)	分担執筆	2014年9月	中央法規	日本老年行動学会監修	60-63
20	東山篤規	翻訳: 月の錯視 なぜ大きく見えるのか	単訳	2014年8月	勁草書房		
21	山本博樹	心理学スタンダード	共著	2014年4月	ミネルヴァ書房	サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明(編)	教育と学び—自立的な学びの支援—
22	春日井敏之	春日井敏之監修・森川紘一編集代表『明日の教師とともに学ぶ』	監修	2014年10月	せせらぎ出版		3-7
23	谷晋二	心理学スタンダード 第2章 行動療法・認知行動療法	分担執筆	2014年4月	ミネルヴァ書房		17-30
24	谷晋二	アクセプタンス&コミットメント・セラピー 実践ガイド	監修	2014年7月	明石書店		
25	谷晋二	優しいみんなのペアレント・トレーニング入門	監修	2014年11月	金剛出版	リサ・W・コイン+アミー・R・マレル 著 谷 晋二 監訳	
26	望月昭	心理学スタンダード: 学問する楽しさを知る	分担執筆	2014年4月	ミネルヴァ書房		31-45
27	廣井亮一	心理学スタンダード	共著	2014年4月	ミネルヴァ書房	サトウタツヤ, 北岡明佳, 土田宣明編	241-253
28	廣井亮一	家裁調査官が見た現代の非行と家族—司法臨床の現場から	編著	2015年3月	創元社		単編著(総頁数336)
29	服部雅史	思考・推論 心理学スタンダード (サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明 編著)	単著	2014年	ミネルヴァ書房	服部雅史	141-153
30	矢藤優子	「心理学スタンダード」II時間の中の人間発達 4章「子ども・青年期」	共著	2014年4月	ミネルヴァ書房	サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明 編著	49-63
31	立岩真也	『「存在を肯定する」作業療法へのまなざし—なぜ「作業は人を元気にする!」のか?「存在の肯定、の手前で」』	分担執筆	2014年6月	三輪書店	田島明子編著	25-69
32	立岩真也	自閉症連続体の時代	単著	2014年8月	みずず書房	立岩真也	
33	井上彰	「ハイク立法理論の再検討—立法過程の政治哲学としての可能性—」『立法学の哲学的再編(立法学のフロンティア 第I巻)』	単著	2014年7月	ナカニシヤ出版	井上達夫編	169-191
34	井上彰	『政治理論とは何か』	共編著	2014年10月	風行社	井上彰・田村哲樹編	1-45

35	井上彰	「平等—なぜ平等は基本的な価値といえるのか—」『現代の経済思想』	単著	2014年10月	勁草書房	橋本努編	173-201
36	村本邦子	『戦争と平和を問い直す～平和学のフロンティア』（第五章「暴力と戦争のトラウマに向き合う心理学」）	分担執筆	2014年4月	法律文化社	君島東彦・名和又介・横山治生編	72-84
37	村本邦子	離婚紛争の合意による解決と子の意思の尊重（第二章 親の離婚と子どもの意思～心理学的観点から	分担執筆	2014年10月	日本加除出版	二宮周平・渡辺惺之編著	96-119（全部381頁）
38	増田梨花	発達と教育の心理学	編著	2015年3月	樹村房	増田梨花・寺沢英里子・松下健・森田麻登	2-42
39	安田裕子	‘From Describing to Reconstructing Life Trajectories: How the TEA (Trajectory Equifinality Approach) explicates context-dependent human phenomena’ (“Culture Psychology and its Future: Complementarity in a new key”)	共著	2014年4月	Information Age Publishing	Sato, T., Kanzaki, M., & Valsiner, J.  Wagoner B., Chaudhary, N. & Hviid, P. (Eds.)	93-104
40	安田裕子	「主題と変奏—臨床便り TEA とコンポジションワーク」（『特集 シリーズ・今これからの心理職① これだけは知っておきたい 医療・保健領域で働く心理職のスタンダード』）	単著	2015年1月	金剛出版、臨床心理学、15・1	下山晴彦・熊野宏昭・中嶋義文・松澤広和（編）	140
41	安田裕子	「等至性と複線径路—両極化した等至点とZOF（ゾーン・オブ・ファイナリティ）へ」（『ワードマップ TEA 理論編—複線径路等至性アプローチの基礎を学ぶ』）	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ（編）	30-34
42	安田裕子	「分岐点と必須通過点—諸力（SDとSG）のせめぎあい」（『ワードマップ TEA 理論編—複線径路等至性アプローチの基礎を学ぶ』）	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ（編）	35-40
43	安田裕子	「未来と未来展望—偶有性を取り込み、価値が変容する経験として」（『ワードマップ TEA 理論編—複線径路等至性アプローチの基礎を学ぶ』）	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ（編）	41-45
44	安田裕子	「画期をなすこと—研究者の視点と所在」（『ワードマップ TEA 理論編—複線径路等至性アプローチの基礎を学ぶ』）	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ（編）	46-51
45	安田裕子	「促進的記号と文化—発生の三層モデルで変容・維持を理解する（その1）」（『ワードマップ TEA 実践編—複線径路等至性アプローチを活用する』）	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ（編）	27-32
46	安田裕子	「行動と価値・信念—発生の三層モデルで変容・維持を理解する（その2）」（『ワードマップ TEA 実践編—複線径路等至性アプローチを活用する』）	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ（編）	33-40
47	安田裕子	「複線性と多様性を描く地図づくり—TEAによる分析の流れ（その1）」（『ワードマップ TEA 実践編—複線径路等至性アプローチを活用する』）	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ（編）	41-46
48	安田裕子	「径路の可視化—TEAによる分析の流れ（その2）」（『ワードマップ TEA 実践編—複線径路等至性アプローチを活用する』）	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ（編）	47-51
49	安田裕子	「緊張状態のあぶりだし—TEAによる分析の流れ（その3）」（『ワードマップ TEA 実践編—複線径路等至性ア	単著	2015年3月	新曜社	安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ（編）	52-59

		アプローチを活用する』					
50	安田裕子	『ワードマップ TEA 理論編—複線径路等至性アプローチの基礎を学ぶ』	共編著	2015年3月	新曜社	滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ	総200頁
51	安田裕子	『ワードマップ TEA 実践編—複線径路等至性アプローチを活用する』	共編著	2015年3月	新曜社	滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ	総272頁
52	松本克美	法学ことはじめ	共著	2015年3月	法律文化社	生田勝義・大平祐一・倉田玲・河野恵一・佐藤敬二・徳川信治・松本克美	15-78
53	渡辺克典	愛知の障害者運動——実践者たちが語る	共著	2015年3月	現代書館	障害学研究会中部部会編	「障害者運動の背景にあるもの」

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	山本耕平	ひきこもり支援の哲学と方法をめぐって：若者問題に関する韓国比較調査から—第3報	単著	2014年6月	立命館産業社会論集(50巻1号)	山本耕平	213-233	
2	山本耕平	麦の郷と精神保健福祉実践 "ほっとけやん"マインドと地域協同の追求 (特集 精神障害者の地域生活への支援)	単著	2014年7月	ノーマライゼーション 障害者の福祉(34巻7号)	山本耕平	27-29	
3	中村正	臨床社会学の方法 (5) 日常行動理論	単著	2014年4月	対人援助学マガジン(5巻1号)	中村正	19-28	
4	中村正	男性性・男性問題をめぐる臨床社会学-親密な関係性研究に焦点づけて-	単著	2014年6月	立命館産業社会論集(50巻1号)	中村正	73-95	
5	中村正	臨床社会学の方法 (6) 共軛関係	単著	2014年9月	対人援助学マガジン(5巻2号)	中村正	19-28	
6	中村正	臨床社会学の方法 (7) 対人援助と民主主義	単著	2014年12月	対人援助学マガジン(第5巻第3号)	中村 正	19-31	
7	松田亮三	「診療報酬」の呪縛を越えて—実りある社会的議論に向けて	単著	2014年4月	大阪保険医雑誌(571号)	松田亮三	15-19	
8	松田亮三	イングランドのNCD対策：心血管アウトカム戦略を中心に	単著	2014年5月	公衆衛生(78巻5号)	松田 亮三	307-311	
9	大谷いづみ	死に至る憐れみ——啓蒙・抵抗・応答の一九七〇年代	単著	2014年9月	『現代思想』(42巻13号)	大谷いづみ	178-197	
10	小澤亘	The Local Community Volunteer Social Worker System in Japan: Analysis of Survey Data	共著	2014年12月	Ritsumeikan University SANGYOU-SHAKAI-RONSHU (50巻3号)	OZAWA Wataru, MAKITA Yukifumi, HIGUCHI Koichi, NISHIMUR A Kiyotada, ISHIKAWA Kuniko, OGAWA Eiji, KATO Hiroshi	1-20	
11	津止正敏	<インタビュー>「ケアメン」に必要な企業の支援とケア・コミュニティの確立	単著	2014年6月	人事実務		20-24	
12	津止正敏	ケアが拓くコミュニティ - 「ケアメンサミット JAPAN」活動報告書 -	共著	2014年	男性介護者と支援者の全国ネットワーク	津止正敏・西田朗子	全39頁	
13	竹内謙彰	2~3歳児は自己とモノのビデオ映像をどのように理解しているか?	共著	2014年9月	発達心理学研究(25巻3号)	加藤弘美・加藤義信・竹内謙彰	302-312	

14	竹内謙彰	新しい発達診断法開発の試み —幼児期における発達の時期 ごとの分析的検討—	共著	2014年9月	立命館産業社会論集(50巻2号)	竹内謙彰・ 荒木穂積・ 中村隆一・ 荒井庸子・ 松島明日香・ 松元佑・ 富井奈菜実・ 井上洋平	121-131	
15	野田正人	いじめ対策法と基本方針の枠 の下で	単著	2014年9月	季刊教育法 (182号)		24-30	
16	野田正人	福岡市における養育支援訪問 事業の効果及び悪化した家庭 の要因と支援のあり方の検討	共著	2014年12月	子どもの虐待とネグレクト、一般 社団法人日本子どもの虐待防止学 会(16巻3号)	元山彩織・ 河浦龍生・ 野田正人	307-319	
17	野田正人	福岡市における養育支援訪問 事業の効果及び悪化した家庭 の要因と支援のあり方の検討	共著	2014年12月	子どもの虐待とネグレクト、一般 社団法人日本子どもの虐待防止学 会(16巻3号)	元山彩織・ 河浦龍生・ 野田正人	307-319	
18	秋葉武	韓国の社会的企業	単著	2014年10月	山本隆編『社会的企業論：もうひ とつの経済』所収、法律文化社		138-149	
19	秋葉武	「長寿島」の研究—奄美・与 論島を事例として—	共著	2014年12月	立命館産業社会論集(50巻3号)	富澤公子、 秋葉 武、 姜 泰羊		
20	丸山里美	「ホームレスと女性」	単著	2014年6月	住宅会議(91巻)	丸山里美	26-30	
21	丸山里美	「貧困女性の声を聞く」	単著	2014年7月	社会主義(625巻)	丸山里美	83-90	
22	丸山里美	「書評に答えて」	単著	2014年10月	ソシオロジ(59巻2号)	丸山里美	108-112	
23	丸山里美	「女性の貧困問題の構造」	単著	2014年12月	Business Labor Trend	丸山里美	53	
24	玉置えみ	Lifetime Prevalence of Mental Disorders among Asian Americans: Nativity, Gender, and Sociodemographic Correlates.	共著	2014年	Asian American Journal of Psychology(5巻4号)	Seunghye Hong, Emily Walton, Emi Tamaki, and Janice A. Sabin	353-363	
25	玉置えみ	Do Low Survey Response Rates Bias Results? Evidence from Japan.	共著	2015年3月	Demographic Research(32巻26 号)	Ronald R. Rindfuss, Minja K. Choe, Noriko O. Tsuya, Larry L. Bumpass, Emi Tamaki.	797-828	
26	石倉康次	「税と社会保障の一体改革」 の歪みとそれを正す力	単著	2014年5月	総合社会福祉研究(43号)	石倉康次	2-16	
27	石倉康次	翻訳：イアン・ファーガソン 「福祉国家は終焉したのか？ —緊縮財政で揺れるイギリス —」	共著	2014年5月	総合社会福祉研究(43号)	黒川奈緒、 石倉康次	73-90	
28	サトウタ ツヤ	From Describing to Reconstructing Life Trajectories:How the TEA (Trajectory Equifinality Approach) explicates context-dependent human phenomena	共著	2014年4月	Culture Psychology and its Future: Complementarity in a new key	Sato, T., Yasuda, Y., Kanzaki, M., & Valsiner, J.	93-104	
29	サトウタ ツヤ	被告人の国籍が裁判員の量刑 判断に与える影響	共著	2014年7月	立命館人間科学研究(30巻)	中田友貴・ サトウタツヤ	45-63	
30	サトウタ ツヤ	ひらめき☆ときめきサイエン ス「模擬法廷に来て裁判に参 加してみましよう」の実践お よび論考	共著	2014年7月	立命館人間科学研究(30巻)	山崎優子・サ トウタツヤ・ 稲葉光行・ 斎藤進也・ 徳永留美・ 安田裕子・ 上村晃弘	87-96	

						木戸彩恵・ 若林宏輔・ 福田茉莉・ 滑田明暢・ 山田早紀・ 川本静香・ 中妻拓也・ 春日秀朗・ 神崎真実・ 中田友貴・ 山口慶江		
31	サトウタ ツヤ	うつ病アナログ群の特徴について：抑うつの連続性検討の観点から	共著	2014年8月	パーソナリティ研究(23巻)	川本静香・ 渡邊卓也・ 小杉考司・ 松尾幸治・ 渡邊義文・ サトウタツヤ	1-12	
32	サトウタ ツヤ	傷痍軍人職業顧問としての心理学者	単著	2014年12月	編集復刻版『傷痍軍人・リハビリテーション関係資料集成』(1巻)	サトウタツヤ	3-10	
33	サトウタ ツヤ	サイエンスカフェにおけるファシリテーターの集団維持機能	共著	2014年	実験社会心理学研究(54巻1号)	日高友郎・ 水月昭道・ サトウタツヤ	11-24	
34	サトウタ ツヤ	親の期待認知が大学生の自己抑制型行動特性及び生活満足感へ与える影響	共著	2014年	発達心理学研究(25巻2号)	春日秀朗・ 宇都宮博・ サトウタツヤ	121-132	
35	サトウタ ツヤ	通学型の通信制高校において教員は生徒指導をどのように成り立たせているのか—重要な場としての職員室に着目して	共著	2015年3月	質的心理学研究(14号)	神崎真実・ サトウタツヤ	19-37	
36	サトウタ ツヤ	慢性の病いをもつ研究者が主宰する病者の集いの場で生成される意味	共著	2015年3月	質的心理学研究(14号)	赤阪麻由・ サトウタツヤ	55-74	
37	宇都宮博	親の期待認知が大学生の自己抑制型行動特性及び生活満足感へ与える影響：期待に対する反応様式に注目して	共著	2014年6月	発達心理学研究(25巻2号)	春日秀朗・ 宇都宮博・ サトウタツヤ	121-132	
38	宇都宮博	高齢者の結婚生活の質と心理的適応および余暇活動—関係性ステイタスの観点から—	単著	2014年11月	高齢者のケアと行動科学(19巻)	宇都宮博	45-62	
39	宇都宮博	新婚期における配偶者との関係性と心理的適応—コミットメント志向性の枠組みから—	単著	2015年2月	立命館人間科学研究(31号)	宇都宮博	53-63	
40	岡本直子	集団個人法と個別法でのコーラージュによる気分変容について—POMS短縮版を用いて—	共著	2014年10月	日本芸術療法学会誌(43巻2号)	杉本理佐・ 岡本直子	37-45	
41	土田宣明	学習活動の遂行で健常高齢者の認知機能を改善できるか—転移効果から—	共著	2014年6月	心理学研究(85巻2号)	吉田甫・ 孫琴・ 土田宣明・ 大川一郎	130-138	
42	土田宣明	健康高齢者に対する認知訓練の現状と課題：訓練の転移	共著	2014年11月	高齢者のケアと行動科学(19巻)	吉田甫・ 古橋啓介・ 土田宣明	76-89	
43	土田宣明	高齢者に対する認知訓練の効果性：立命館大学での10年間の試み	共著	2014年11月	高齢者のケアと行動科学(19巻)	吉田甫・ 孫琴・ 古橋啓介・ 土田宣明・ 高橋伸子・ 石川真理子・ 坂口佳江・ 小田博子・ 吉村昌子・ 大川一郎	2-16	

44	土田宣明	運動抑制からみた加齢効果	単著	2015年3月	立命館文学(641号)	土田宣明	44-52	
45	東山篤規	The effects of luminance, size, and duration of a visual line on apparent vertical while the head is being inclined in roll	共著	2015年3月	Attention, Perception, & Psychophysics(77巻2号)	東山篤規・村上嵩至	681-691	
46	東山篤規	見かけの直線的大きさと角度的大きさ	単著	2015年3月	立命館文学(藤健一教授退職記念論集)(641巻)	東山篤規	32-43	
47	星野祐司	Windowsによる画像の短時間提示:SharpDXとDirect3D9の利用	単著	2015年3月	立命館文学(641号)	星野祐司	53-68	
48	星野祐司	順序の再構成課題における学習直後と遅延後の語長効果	共著	2015年	認知心理学研究(12巻2号)	都賀美有紀・星野祐司	121-128	
49	山本博樹	高校「倫理」教科書の読解学習を支援する標識化の有効性に関する実証研究	単著	2014年6月	平成23年度～平成25年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書	山本博樹		
50	山本博樹	高校「倫理」教科書の理解度を促す概説表現の効果—学習支援研究に基づく支援可能性の提示—	共著	2015年3月	日本学校心理士会年報(7巻)	山本博樹・織田涼	145-158	
51	山本博樹	高校「倫理」教科書の概説表現と「絶対他力思想」の理解支援	単著	2015年3月	日本仏教教育学研究(23巻)	山本博樹	22-26	
52	春日井敏之	つながって生きるカー教師と保護者で大切にしたいこと大月書店、2014/4、30-33.	単著	2014年4月	クレスコ編集委員会編『クレスコ』(157号)		30-33	
53	春日井敏之	つながって生きる一子ども・青年の自己形成と支援を考える	単著	2014年5月	日本生活教育連盟編『生活教育』(786号)		56-63	
54	春日井敏之	教育実践における教師の主体性と協同性—子どものいのち、権利を守る教育	単著	2014年11月	日本生活教育連盟編『生活教育』(792号)		54-60	
55	谷晋二	症例検討の必須事項	単著	2015年1月	行動療法研究(41巻1号)	谷晋二	13-18	
56	谷晋二	新たな支援の類型を求めて	単著	2015年2月	立命館人間科学研究(31号)	谷晋二	83-95	
57	中鹿直樹	反応非依存的な獲得事態と回避事態が行動変動性の減少に及ぼす影響についての比較検討	共著	2014年9月	行動科学(53巻1号)	大屋藍子・武藤崇・中鹿直樹	11-20	
58	廣井亮一	規範意識と非行	単著	2014年6月	児童心理(987号)	廣井亮一	101-106	
59	廣井亮一	司法臨床としての情状心理鑑定	単著	2014年8月	現代法律事務の諸問題(平成25年度巻)	廣井亮一	928-941	
60	廣井亮一	ストーカー加害者への司法臨床	単著	2014年9月	犯罪と非行(178号)	廣井亮一	68-83	
61	若林宏輔	公判前の事件報道に対して理論的根拠を含む裁判官説示が与える影響	共著	2014年10月	法と心理(14巻1号)	若林宏輔・淵野貴生・サトウタツヤ	87-97	
62	矢藤優子	d2-Rテストを用いた日本人小学生の視覚的注意の測定—心理学的臨床検査としての日本への導入を目指して—	共著	2014年12月	パーソナリティ研究(23巻2号)	矢藤優子・廣瀬翔平・Wallon Philippe・Mesmin Claude・Jobert Matthieu		
63	矢藤優子	幼児におけるうそ行動の認知的基盤の検討	共著	2015年	発達心理学研究	藤戸麻美・矢藤優子		
64	川那部隆司	立命館大学における初年次教育支援の課題と展望—初年次教育プロジェクトの活動から—	単著	2015年3月	立命館高等教育研究(15巻)	川那部隆司	73-84	

65	松原洋子	アクセシブルな電子図書館と読書困難な学生の支援—日本における大学図書館サービスの課題と展望	単著	2015年2月	立命館人間科学研究(31号)	松原洋子	65-73	
66	松原洋子	障害者差別解消法の高等教育機関における障害学生支援への影響	単著	2015年3月	大学図書館問題研究会誌(39号)	松原洋子	3-10,25-31	
67	立岩真也	生の現代のために・2	単著	2014年4月	現代思想(42巻6号)	立岩真也	8-19	
68	立岩真也	私の筋が通らない、それはやらないと(大野萌子へのインタビュー)	その他	2014年5月	現代思想(42巻8号)	立岩真也	192-206	
69	立岩真也	「精神病」者集団、差別に抗する現代史(山本眞理へのインタビュー)	その他	2014年5月	現代思想(42巻8号)	立岩真也	30-49	
70	立岩真也	精神医療現代史へ・追記 2	単著	2014年5月	現代思想(42巻8号)	立岩真也	8-21	
71	立岩真也	精神医療現代史へ・追記 3	単著	2014年6月	現代思想(42巻9号)	立岩真也	8-19	
72	立岩真也	精神医療現代史へ・追記 4	単著	2014年7月	現代思想(42巻10号)	立岩真也	8-19	
73	立岩真也	精神医療現代史へ・追記 5	単著	2014年8月	現代思想(42巻12号)	立岩真也	8-20	
74	立岩真也	わらじ医者はわらじも脱ぎ捨て—「民主的医療」現代史(早川一光へのインタビュー)	その他	2014年9月	現代思想(42巻13号)	立岩真也	37-59	
75	立岩真也	精神医療現代史へ・追記 6	単著	2014年9月	現代思想(42巻13号)	立岩真也	8-23	
76	立岩真也	精神医療現代史へ・追記 7	単著	2014年10月	現代思想(42巻14号)	立岩真也	8-19	
77	立岩真也	精神医療現代史へ・追記 8	単著	2014年11月	現代思想(42巻15号)	立岩真也	8-19	
78	井上彰	分析的な政治哲学とロールズ『正義論』	単著	2014年5月	『政治思想研究』(14号)	井上彰	6-32	
79	村本邦子	Notes on Schmid's "Psychotherapy is Political or it is not Psychotherapy: The Person-Centred Approach as an Essentially Political Venture"	単著	2014年5月	Psychotherapy and Politics International(12巻1号)		58-64	
80	村本邦子	周辺からの記憶 3: むつ、下北半島	単著	2014年6月	対人援助学マガジン(5巻1号)	対人援助学マガジン	196-206	
81	村本邦子	レジリエンスな子どもを育てる～愛され、愛することのできる子どもに	単著	2014年8月	児童心理(989巻)		97-101	
82	村本邦子	被害者支援の現場実践から書くうえで大切にしたいこと	単著	2014年8月	臨床心理学(増刊6号)	村本邦子	162-165	
83	村本邦子	周辺からの記憶 4: 東日本・家族応援プロジェクト3年を振り返って	単著	2014年9月	対人援助学マガジン(5巻2号)		203-220	
84	村本邦子	周辺からの記憶 5: 2011年むつ・遠野・福島	単著	2014年12月	対人援助学マガジン(5巻3号)	村本邦子	184-199	
85	村本邦子	大学院におけるサービス・ラーニングを取り入れたプロジェクト型教育の試み～「東日本・家族応援プロジェクト2011～2013」の成果と課題	共著	2015年2月	立命館大学応用人間科学研究科冊子	村本邦子・中村正	1-45	
86	吉沅洪	Relationship between Children's Bereavement Experiences due to Disasters and Behavior Problems	共著	2014年11月	Health Care(2巻4号)	Tomoko Kobayashi1, Yuanhong Ji, Xinhua Tao, Yasuji Ozawa4	65-73	

87	安田裕子	「ひらめき☆ときめきサイエンス「模擬法廷に来て裁判に参加してみましょう」の実践および論考」	共著	2014年7月	立命館大学人間科学研究所、立命館人間科学研究、30	山崎優子・サトウタツヤ・稲葉光行・斎藤進也・徳永留美・上村晃弘・木戸彩恵・若林宏輔・福田茉莉・滑田明暢・山田早紀・川本静香・中妻拓也・春日秀朗・神崎真実・中田友貴・山口慶江		有
88	安田裕子	「質的データをどう扱うかー質的研究の手ほどき」(『臨床心理職のための「研究論文の教室」ー研究論文の読み方・書き方ガイド』)	単著	2014年8月	金剛出版、臨床心理学増刊、6	森岡正芳・大山泰宏(編)	94-100	無
89	安田裕子	「法と心理学会第14回大会ワークショップ 犯罪被害者をとりまく問題ー臨床心理学、法社会学、法心理学からの検討」	共著	2014年11月	法と心理学会、法と心理、14・1	林久美子・佐伯昌彦・山崎優子・福井厚・綿村英一郎	56-62	有
90	徳永留美	Chromatic induction from surrounding stimuli under perceptual suppression	共著	2014年11月	Visual Neuroscience Vol.31, Issue 6	Horiuchi K., Kuriki I., Tokunaga R., Matsumiya K. and Shioiri S.		有
91	篠田博之	窓面からの昼光導入が空間の明るさ感に与える影響	共著	2014年11月	照明学会誌(98巻11号)	山口秀樹・丸山隆志・篠田博之	593-599	
92	篠田博之	Demonstration of Color Constancy in Photographs by Two Techniques: Stereoscope and D-up Viewer	共著	2014年12月	Optical Review(21巻6号)	Chanprapha PHUANGSU WAN, Mitsuo IKEDA, and Hiroyuki SHINODA	810-815	
93	篠田博之	Effect of depth order on linear vection with optical flows	共著	2014年12月	i-Perception(5巻7号)	Seya Y, Tsuji T, and Shinoda H	630-640	
94	篠田博之	Estimation of straylight in the eye and its relation to visual function	共著	2014年12月	Optical Review(21巻6号)	Miyoshi Ayama, Ryosuke Yamazaki, Shin-ichi Nakanoya, Tomonori Tashiro, Tomoharu Ishikawa, Kazuhiko Ohnuma, Hiroyuki Shinoda, and Keisuke Araki		

95	稲葉光行	ひらめき☆ときめきサイエンス「模擬法廷に来て裁判に参加してみよう」の実践および論考	共著	2014年7月	立命館人間科学研究(30巻)	山崎優子・サトウタツヤ・稲葉光行・斎藤進也・徳永留美・安田裕子・上村晃弘・木戸彩恵・若林宏輔・福田茉莉・滑田明暢・山田早紀・川本静香・中妻拓也・春日秀朗・神崎真実・中田友貴・山口慶江	87-97	
96	稲葉光行	公判廷における尋問者と供述者のディスコミュニケーション	共著	2014年10月	法と心理(14巻1号)	山田早紀・脇中洋・稲葉光行・村山満明・大倉得史	63-70	
97	稲葉光行	高度情報化社会における法心理学領域の展望	共著	2014年10月	法と心理(14巻1号)	若林宏輔・稲葉光行・斎藤進也	82-86	
98	稲葉光行	複合的媒介人工物としてのビデオ作品がもつ意味—平成26年度八幡子ども会議委員による市長提言を事例として—	共著	2015年2月	日本教育工学会研究報告集(15巻1号)	伊藤大輔・稲葉光行	195-200	
99	松本克美	一部請求と時効の中断—裁判上の催告の時効中断効について—	単著	2014年6月	立命館法学(353号)	松本克美	27-66	
100	松本克美	児童の起こした自転車事故と母親の監督義務者責任	単著	2014年7月	私法判例リマークス(49号)	松本克美	50-53	
101	松本克美	「過去の克服」と将来展望	単著	2014年11月	法律時報増刊・改憲を問う 民主主義法学からの視座(増刊号)	松本克美	216-221	
102	松本克美	民法724条後段の20年期間の法的性質と民法改正の経過規定について	単著	2015年1月	法と民主主義(495号)	松本克美	41-45	
103	松本克美	民法724条後段の20年期間の起算点と損害の発生—権利行使可能性に配慮した規範的損害顕在化時説の展開—	単著	2015年3月	立命館法学(357・358号)	松本克美	1809-1848	
104	渡辺克典	障害学と障害者運動の研究動向	単著	2014年7月	保健医療社会学論集(25巻1号)	渡辺克典		
105	渡辺克典	あいまいな吃音の諸相	単著	2015年3月	生存学(8巻)	渡辺克典		
106	春日彩花	幼児期後期・学童期前期における自閉症スペクトラム児の療育プログラム開発—集団でおこなう見立て活動とごっこ遊びを取り入れたプログラム—	共著	2015年2月	立命館人間科学研究(31)	春日彩花・藤戸麻美・安田祥子・松本梨沙・小島拓・古田絵理・富井奈菜実・中原咲子・荒木美知子・竹内謙彰・荒木穂積	35-52	有
107	由井秀樹	小児科医の出産への接近—戦前・戦中期日本における未熟児医療の展開から	単著	2015年2月	立命館人間科学研究(31)		75-82	

108	神崎真実	不登校経験者受け入れ高校における教員による生徒への支援 —フィールドワークに基づく トランスビューモデルの生成—	共著	2014年7月	立命館人間科学研究 (30)	神崎真実・サトウタツヤ	15-32	有
109	村上高至	Navon 図形を用いた視覚探索課題の遂行に気分が及ぼす影響	単著	2014年7月	立命館人間科学研究 (30)		33-43	有
110	中田友貴	被告人の国籍が裁判員の量刑判断に与える影響—事件の種類 の観点から—	共著	2014年7月	立命館人間科学研究 (30)	中田友貴・サトウタツヤ	45-63	有
111	山崎優子	ひらめき☆ときめきサイエンス「模擬法廷に来て裁判に参加してみましよう」の実践および論考	共著	2014年7月	立命館人間科学研究(30)	山崎優子・サトウタツヤ・稲葉光行・齋藤進也・徳永留美・安田裕子・上村晃弘・木戸彩恵・若林宏輔・福田茉莉・滑田明暢・山田早紀・川本静香・中妻拓也・春日秀朗・神崎真実・中田友貴・山口慶江	87-96	

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	山本耕平	麦の郷実践・運動にみる当事者・実践者・地域住民の関係性に関する研究 — 地域実践の対象から主体をめざして —	2014年11月	日本社会福祉学会第62回秋季大会	兵頭宏美 山本耕平
2	山本耕平	総合的な若者支援実践の哲学と方法を巡って	2014年11月	日本社会福祉学会第62回秋季大会	山本耕平
3	Tadashi Nakamura	Community Support through "East Japan Family Support Project"	2014年5月	21th IFP World Congress of Psychotherapy	Tadashi Nakamura
4	松田亮三	アクション・リサーチのための学実連携構築: 「支える医療」 共同プロジェクトでの経験	2014年7月	第55回日本社会医学会総会	松田亮三、福田茉莉、石橋修
5	松田亮三	健康格差に対する政策展開—理論と実践	2014年7月	第55回日本社会医学会総会	松田亮三
6	松田亮三	Multilevel Governance in Comparison: national-Regional Dynamics in the Regulation of the French and the Japanese Healthcare systems	2014年7月	23rd World Congress of Political Science	Ryozo MATSUDA and Monika STEFFEN
7	小澤亘	"The Local Community Volunteer Social Worker System in Japan: Survey-data Analysis and Feedback to the Community"	2014年7月	ISTR(International society for third sector research) 11th International Conference	Wataru Ozawa et al.
8	小澤亘	マイノリティの学習権保障と教科書アクセシビリティ	2014年8月	日本デジタル教科書学会 2014 年度年次大会	小澤亘
9	小澤亘	「日本語」というバリア: ニューカマーの子どもたちと学習権の保障	2014年12月	東京大学教育学研究科バリアフリー教育開発研究センター主催公開シンポジウム「教科書とバリアフリー — インクルーシブな社会のための教育の課題」	小澤 亘
10	小澤亘	Volunteer Sector facing the Super Aged Society in Japan	2015年3月	新自由主義的グローバル化と現代東アジアの社会経済構造の変容	OZAWA Wataru

11	櫻谷眞理子	親子関係の再構築について考えるー児童養護施設入所児童・退所者・職員へのインタビューを通してー	2014年9月	第20回JaSPCAN 学術集会「子ども虐待防止世界会議 名古屋2014」	櫻谷眞理子
12	野田正人	若者の仕事を巡る現実と生き方	2014年8月	ユースワーカー養成公開研究会パネルフォーラム 立命館大学人間研、(公財)京都ユースサービス協会共催 於:京都市中京青少年活動センター	
13	秋葉武	日本のシニアの社会参加/社会貢献の多様化	2014年6月	韓日シンポジウム シニアの社会参加 (韓国希望製作所主催 於:ポスト・タワー会議室 ソウル市)	秋葉 武
14	秋葉武	日本のソーシャル・ビジネス	2014年7月	2014 グローバル社会的企業シンポジウム(プサン市主催 於:BEXCO)	秋葉 武
15	秋葉武	Sharing Economy in Japan	2014年11月	Global Social Economy Forum 2014(at Seoul City Hall)	Takeshi AKIBA
16	秋葉武	韓国の社会的企業と社会的経済ーマイクロ・メゾからマクロへー	2015年3月	日本NPO学会第16回年次大会	秋葉 武
17	玉置えみ	The Division of Household Labor, Gender Attitudes, and Marital Satisfaction: Evidence from Japan 1994-2009.	2014年5月	Population Association of America Annual Meeting, Boston, MA	Emi Tamaki, Ronald R. Rindfuss, Minja K. Choe, Noriko Tsuya, Larry Bumpass, and Martin Piotrowski
18	玉置えみ	The Gendered Effects of Marriage on Sobriety in Japan.	2014年5月	Population Association of America Annual Meeting, Boston, MA	Emi Tamaki
19	玉置えみ	日本における Current Duration Approach の適用	2014年6月	日本人口学会	小西祥子・玉置えみ
20	玉置えみ	生活習慣と月経不順の関連: インターネット調査の予備分析から	2014年6月	日本人口学会	玉置えみ・小西祥子
21	石倉康次	「福祉の準市場化の中で、民間社会福祉事業は何を大切にすべきか」『総合社会福祉研究』第44号	2014年12月	第20回社会福祉研究交流集会	
22	サトウタツヤ	The history of Forensic psychology research in Japan :1900-1945. , China University of Political Science and Law, China, 18th, OCT., 2014	2014年10月	8th East Asian Law and Psychology Conference	Nakata, Y. & Sato, T
23	宇都宮博	成人子からみた老親の結婚生活の質と心理的距離ー両親間葛藤との関連からー	2014年7月	日本家族心理学会 第31回大会	
24	岡本直子	演劇療法と「投影ドラマ法」の比較-「私以外の役割」を通じた表現がもたらすもの-	2014年8月	日本心理臨床学会第33回秋期大会	岡本直子
25	岡本直子	各発達段階における対人恐怖心性の特徴	2014年9月	日本心理学会第78回大会	日本心理学会
26	岡本直子	若年層妊産婦におけるケアニーズ及びそれに伴う満足感の検討ー妊娠期・周産期・育児初期に着目してー	2014年9月	日本心理学会第78回大会	磯井知子・岡本直子
27	土田宣明	The effectiveness of pursuit of purpose in life program for “wonderful aging” on psychological well-being in older adults	2014年7月	28th edition, the International Congress of Applied Psychology	KUSAKA Nahoko, TSUCHIDA Noriaki, NARUMOTO Jin
28	土田宣明	シンポジウム「ケアと脳科学」話題提供	2014年9月	日本老年行動科学学会第17回大会	土田宣明
29	東山篤規	The effects of head and retinal-image orientations on apparent depth of light-and-shade pictures	2014年8月	The 37th Annual Meeting of European Conference on Visual Perception	Atsuki Higashiyama and Tadashi Yamazaki
30	東山篤規	奥行き方向における平行線: 視空間のユークリッド性の検討	2014年11月	関西心理学会第126回大会	東山篤規
31	星野祐司	手がかりの種類が自伝的記憶の特定性に与える影響	2014年9月	日本心理学会第78回大会	星野祐司・林明日香
32	星野祐司	非自発的行動場面におけるブライム刺激がintentional bindingに与える影響の検討	2014年9月	ヒューマン情報処理研究会	吉田史明・星野祐司
33	山本博樹	高校生への「倫理」教科書の学習に対する支援は有効かー支援の恩恵を受け取る高校生ー	2014年8月	日本学校心理士会2014年度大会	

34	山本博樹	いかに未熟な読み手が読解過程で見出しの恩恵を受けるか—PC を用いた時系列的な評価—	2014年9月	日本心理学会 78 回大会	山本博樹・織田涼
35	山本博樹	学習支援研究がひらく豊かな生涯—いかに高齢者の記憶支援を自立支援へとつなげるか—	2014年9月	日本心理学会第 78 回大会	山本博樹・吉田甫・孫琴・増本康平・金城光・古橋啓介・佐藤眞一
36	山本博樹	高校「倫理」教科書の概説表現と「絶対他力思想」の理解支援	2014年10月	日本仏教教育学会第 23 回大会	
37	山本博樹	高校「倫理」教科書からの思想形成過程の学習と支援 (1)—いかに支援の効果を受給しているか?—	2014年11月	日本教育心理学会第 56 回大会	山本博樹・織田涼
38	山本博樹	高校「倫理」教科書からの思想形成過程の学習と支援 (2)—受給した有効性は引き継がれるか?—	2014年11月	日本教育心理学会第 56 回大会	織田涼・山本博樹
39	山本博樹	なぜ子どもへの学習支援が役立たなくなるのか—介在するメカニズムと本当の支援のあり方—	2014年11月	日本教育心理学会第 56 回大会	山本博樹・吉田甫・伊藤貴昭・川那部隆司・深谷優子・宮本正一・藤村宣之・安永悟
40	山本博樹	学習支援の受け取りは難しくないか—高校「倫理」教科書の学習支援から考える	2014年11月	日本教育心理学会第 56 回大会	
41	山本博樹	授業デザインの最前線—教育心理学第 3 世代のアプローチ—	2014年11月	日本教育心理学会第 56 回大会	高垣マユミ・伊藤崇達・山本博樹・田中俊也・鹿毛雅治・小野瀬雅人
42	山本博樹	授業デザイナーに課された学習支援の難題	2014年11月	日本教育心理学会第 56 回大会	
43	山本博樹	大学生の質問行動を促進するための質問生成過程への介入—質問の型リストを用いた高次な質問の促進—	2014年11月	日本教育心理学会第 56 回大会	尾坂柚稀・山本博樹
44	山本博樹	中学「歴史」教科書の読解を促すための挿入質問のあり方—読み飛ばし問題の解消に向けて—	2014年11月	日本教育心理学会第 56 回大会	小島淳一・山本博樹
45	春日井敏之	子どもの生活世界と生活指導—『自己形成』の基盤の回復をどう支援するのか	2014年8月	日本生活指導学会第 32 回研究大会 (沖縄)	報告者: 船越裕和・金城綾子, コメンテーター: 春日井敏之・森伸子
46	春日井敏之	明日の教師とともに学ぶ—「大学講師の会」による教育実践研究	2014年9月	日本臨床教育学会第 4 回研究大会 (茨城)	森川紘一・土佐いく子・春日井敏之
47	春日井敏之	中国における大学生へのピア・サポートトレーニングの実践および考察—蘇州大学での絵本を活用したプログラムの試みから	2014年10月	日本ピア・サポート学会第 13 回研究大会(新潟)	鄭平陽・春日井敏之・増田梨花
48	春日井敏之	高大連携—附属高校選択科目におけるピア・サポートプログラムの活用 PART I	2014年10月	日本ピア・サポート学会第 13 回研究大会(新潟)	西川大輔・梶井亮・河合誠也・木戸口峻・原田有規・荒井将多・立花周太・山崎瑞貴・春日井敏之・増田梨花
49	春日井敏之	高大連携—附属高校選択科目におけるピア・サポートプログラムの活用 ART II	2014年10月	日本ピア・サポート学会第 13 回研究大会(新潟)	山崎瑞貴・原田有規・荒井将多・立花周太・西川大輔・梶井亮・河合誠也・木戸口峻・春日井敏之・増田梨花
50	春日井敏之	ピア・サポートが学力向上に果たす役割—真の学力を身につけさせるためには	2014年10月	日本ピア・サポート学会第 13 回研究大会 (新潟)	シンポジスト: 杉江修治・バーンズ亀山静子・栗原慎二, 指定討論者: 春日井敏之
51	谷晋二	The developing mental-health support program for the parents of children having disabilities.	2014年5月	4th International Conference on Sociology and Social Work	TANI Shinji
52	谷晋二	Psychological Flexibility and mental health issues of parents of children having disabilities.	2014年6月	The 12th World Annual Conference of the Association for Contextual Behavioral Science	Shinji TANI, Kotomi KITAMURA, Tomoko OKAMOTO, & Hiroaki OKAMOTO
53	中鹿直樹	Does avoidance from non-contingent negative reinforce influence on behavioral variability?	2014年6月	Association for contextual behavioral science, Annual world conference 12	Oya, A., Muto, T., & Nakashika, N
54	中鹿直樹	反応非依存的な回避事態における心理的非柔軟性を持つ大学生の行動傾向	2014年6月	日本行動分析学会第 32 回年次大会	大屋藍子・武藤崇・中鹿直樹
55	中鹿直樹	「人に教える」場が特別支援学校高等部生徒二名にもたらす影響の検討	2014年11月	日本対人援助学会第 6 回年次大会	小島 遼・中鹿直樹・望月 昭 (他 8 名)

56	望月昭	臨床を「人称」から考えるー「二人称の科学」は成立するのか？	2014年11月	対人援助学会第6年次大会	望月昭・武藤崇 他
57	望月昭	障害のある児童・生徒の継続的支援のための情報共有の仕組みについて	2014年11月	対人援助学会第6回年次大会	中鹿直樹・望月昭
58	望月昭	トークンシステムを用いた家庭内の片付け行動の促進	2014年11月	対人援助学会第6回年次大会	滑田明暢・田村彩佳・望月昭
59	望月昭	疑似就労場面における「仲間を教える」役割設定が高等部生徒の行動におよぼす効果	2014年11月	対人援助学会第6回年次大会	小島遼・吉尾玲美・水野しおり・立花周太・渡辺舞・中妻拓也・中鹿直樹・望月昭
60	廣井亮一	家族の過去、現在、未来	2014年8月	日本心理臨床学会	
61	廣井亮一	「ストーカー加害者への司法臨床ー逗子ストーカー事件の被害者ご遺族の報告をもとに」	2014年10月	第14回法と精神・心理研究会	
62	廣井亮一	「司法臨床の展開(第4報)ー家庭裁判所再考/家裁調査官の活動をめぐって」	2014年10月	第15回法と心理学会	
63	若林宏輔	近代日本の法と心理学史ー明治から現代の応用心理学ー	2014年5月	立命館大学土曜講座「専門研究への橋わたし-入門シリーズ(2) 第3095回」	若林宏輔
64	若林宏輔	Inside Deliberation: Comparing between pure jury and mixed jury deliberation	2014年9月	A Symposium on Japanese Criminal Justice And Psychology and Law in Japan	Wakabayashi, K.
65	若林宏輔	裁判員評議研究のABCー失敗例を参考にー	2014年9月	第78回日本心理学会大会	若林宏輔
67	若林宏輔	Inside deliberation: Comparing the statistical visualizing method	2014年10月	8th East Asia law and psychology conference	Wakabayashi, K.
68	服部雅史	Probabilistic representation in syllogistic reasoning	2014年5月	Reasoning, Cognition and Life: A Conference in Honour of Professor Ken Manktelow	Hattori, M.
69	服部雅史	The impact of non-occurrent events in causal induction: AB frames	2014年5月	Reasoning, Cognition and Life: A Conference in Honour of Professor Ken Manktelow	Hattori, I., Hattori, M., Takahashi, T., & Over, D.
70	服部雅史	Subliminal problem solving: Dual process of cognition and their interaction	2014年6月	The 2nd New Paradigm Psychology of Reasoning Conference	Hattori, M.
71	服部雅史	無意識的情報利用と意識的コントロール	2014年6月	日本認知心理学会第12回大会	服部雅史・織田 涼
72	服部雅史	Probabilistic representation in syllogistic reasoning and the effects of content and figures	2014年7月	The 7th London Reasoning Workshop	Hattori, M.
73	服部雅史	Effects of a mood and an unrecognized hint on insight problem solving	2014年7月	The 36th Annual Conference of the Cognitive Science Society	Orita, R., & Hattori, M.
74	服部雅史	認知資源と動機が態度変容に及ぼす影響	2014年9月	日本心理学会第78回大会	佐藤安美・服部雅史・唐沢 謙
75	服部雅史	洞察問題解決における手がかりの利用に気分が及ぼす影響	2014年9月	日本認知科学会第31回大会	織田 涼・服部雅史
76	服部雅史	洞察問題解決における認知資源と拡散的処理モードの影響	2014年12月	日本基礎心理学会第33回大会	西田勇樹・織田 涼・服部雅史
77	服部雅史	洞察問題解決における内生的促進と外生的促進	2015年1月	立命館大学人間科学研究所2014年度年次総会	西田勇樹・織田 涼・服部雅史
78	矢藤優子	Japanese adolescents' concentration and attention measured by the d2-R test	2014年5月	Association for Psychological Science 26th Annual Convention	Yuko Yato, Shohei Hirose, Philippe Wallon, Claude Mesmin, Matthieu Jobert
79	矢藤優子	An attempt to computerize a projective approach	2014年9月	日本心理学会第78回大会	矢藤 優子・Philippe Wallon・Claude Mesmin・Matthieu Jobert・加藤義信
80	矢藤優子	幼児におけるうそ行動の認知的基盤の検討	2014年9月	日本心理学会第78回大会	藤戸麻美・矢藤優子
81	矢藤優子	ワークショップ「コンピュータを用いた描画プロセスの定量的分析」	2014年9月	ワークショップ(文部科学省科学研究費補助金(基盤研究C,25380903)/立命館大学人間科学研究所共催)	企画・司会:矢藤優子 ファシリテーター:加藤義信 発表:フィリップ・ワロン
82	矢藤優子	乳幼児期のかかわりが社会性発達に及ぼす影響:出生コホートと保育コホートによる検証	2014年11月	第73回日本公衆衛生学会総会	田中笑子・富崎悦子・渡辺多恵子・望月由紀子・徳竹健太郎・呉柏良・篠原亮次・杉澤

					悠圭・矢藤優子・山川紀子・山縣然太郎・安梅勲江
83	矢藤優子	描線情報解析ソフトを用いた描画発達検査の分析	2015年3月	日本発達心理学会第26回大会	矢藤優子
84	川那部隆司	Extremely Silent but Incredibly Suggestive: The Profile of Non-Respondents	2014年5月	AIR Annual Forum 2014	Kawanabe, T. & Torii, T.
85	川那部隆司	なぜ子どもへの学習支援が役立たなくなるのか—介入するメカニズムと本当の支援のあり方—	2014年11月	日本教育心理学会第56回総会	山本博樹・吉田甫・伊藤貴昭・川那部隆司・深谷優子・宮本正一・藤村宣之・安永悟
86	川那部隆司	立命館大学におけるピア・サポート活動促進の取り組み(2)—ピア・サポート団体同士のつながりの構築に向けて—	2015年3月	第20回FDフォーラム	川那部隆司・岡本詠里子・沖裕貴・土岐智賀子
87	松原洋子	日本における出生前スクリーニング検査ガバナンスの課題	2014年5月	日本科学史学会第61回年会	
88	松原洋子	生命倫理学と科学史—日本優生学史の自律性と批判性をめぐって	2014年6月	ワークショップ「生命倫理学の歴史を語ること、その陥穽」	松原洋子
89	松原洋子	全体コメント	2015年2月	出生をめぐる知／技術の編成	松原洋子
90	松原洋子	指定発言	2015年3月	シンポジウム「中村禎里と冷戦期日本の生物学史研究」	松原洋子
91	立岩真也	病・障害の諸相、そしてなおすこと・補うこと・委ねること	2014年11月	障害学国際セミナー 2014	立岩真也
92	井上彰	Rawlsian Contractualism and the Cognitively Disabled	2014年5月	International Conference: Social Contract Theory. Past, Present, and Future	Akira Inoue
93	井上彰	運の平等と個人の責任	2014年7月	2014年度第1回共生社会経済研究会	井上彰
94	井上彰	On Parfitian Prioritarianism and the Separateness of Persons	2014年8月	13th Conference of International Society for Utilitarian Studies	Akira Inoue
95	井上彰	On Institutional Luck Egalitarianism	2014年11月	The 12th Asia Pacific Conference	Akira Inoue
96	村本邦子	Community Support through "East Japan Family Support Project"	2014年5月	21st International Federation for Psychotherapy World Congress of Psychotherapy	Muramoto, Kuniko, Nakamura, Tadashi, and Dan, shiro
97	村本邦子	心理学実践とジェンダー	2014年9月	日本心理学会第78回大会	
98	村本邦子	児童期の性的虐待被害によるトラウマとその回復	2014年10月	法と心理学会第15回学術大会WS S「児童期の性的虐待被害とその回復をめぐる法と心理」	村本邦子
99	村本邦子	「東日本・家族応援プロジェクト」の成果と課題	2014年11月	対人援助学会第六回大会	村本邦子・中村正
100	村本邦子	大学院における「東日本・家族応援プロジェクト」におけるレジリエンスと「物語る力」	2014年11月	対人援助学会第六回大会	村本邦子
101	村本邦子	「親密な関係における対人暴力の現状～日本とニューヨークの現状～被害者支援の視点から」	2015年3月	「親密な関係における対人暴力の現状～日本とニューヨークの現状」JAMSNET, Japanese Community of Creative Arts Therapists (CJCAT)共催、日本国領事館後援	
102	吉沅洪	A Comparative Study on the Mental Health of Parents who have Disabled Children –Taiwan and China Mainland	2014年5月	21st IFP World Congress of Psychotherapy	Shinji TANI, Yuanhong Ji, Nien-Hwa LAI, Xinhua TAO
103	吉沅洪	The three-stage model of psychological support for children after disasters	2014年5月	21st IFP World Congress of Psychotherapy	Yoshiki Tominaga, Yuanhong Ji
104	吉沅洪	Psychotherapy for the victims of disasters	2014年5月	21st IFP World Congress of Psychotherapy	Yuanhong Ji, Weili Wu
105	吉沅洪	絵画療法における投影と治療に関する応用	2014年8月	第7回全国心理衛生学術大会	
106	吉沅洪	協働によるスクールカウンセリングにおける危機介入の策略	2014年11月	第6回アジア災害後心理援助国際シンポジウム	
107	増田梨花	学校保健室で携帯型心電計を使用し、治療に結びついた不整脈の一例	2014年11月	日本学校保健学会第61回学術大会	遠藤志乃・五十嵐恵子・工藤里佳子・上村春彦・松下健・増田梨花・小袋伸江・森美樹

					児玉頼昭・小沢友紀雄
108	増田梨花	教職員と生徒による救急救命シミュレーション研修からみえるもの	2014年11月	日本学校保健学会第61回学術大会	五十嵐恵子・小沢友紀雄・小袋伸枝・上村春彦・遠藤志乃・工藤里佳子・増田梨花・松下健・森美樹・児玉頼昭
109	増田梨花	学校生活アンケートによる高校生の食生活の意識調査と対策	2014年11月	日本学校保健学会第61回学術大会	森美樹・小袋伸枝・児玉頼昭・上村春彦・五十嵐恵子・遠藤志乃・工藤里佳子・増田梨花・松下健・小沢友紀雄
110	増田梨花	高校生の検診時高血圧と高血圧の家族歴	2014年11月	日本学校保健学会第61回学術大会	工藤里佳子・小沢友紀雄・小袋伸枝・上村春彦・五十嵐恵子・遠藤志乃・増田梨花・松下健・児玉頼昭・森美樹
111	増田梨花	「血圧」を研究課題とした高校生における問題解決学習の学習効果	2014年11月	日本学校保健学会第61回学術大会	上村春彦・森美樹・児玉頼昭・小袋伸枝・五十嵐恵子・遠藤志乃・工藤里佳子・増田梨花・松下健・小沢友紀雄
112	安田裕子	コミュニティ心理学と TEM の出会いーその出会いは幸福な径路をたどるのか	2014年6月	日本コミュニティ心理学会第17回大会(研究委員会企画シンポジウム)、立命館大学	サトウタツヤ・三枝将史・中島希
113	安田裕子	Understanding Compositionwork from the perspective of TEA: Trajectory Equifinality Approach(Applying Compositionwork to qualitative research about grasping experiences of an infertile woman focusing Bifurcation Point(BFP)	2014年8月	The 8th International Conference on the Dialogical Self (Symposia), The Hague University of Applied Sciences, The Hague, The Netherlands	Sato, T., & Nameda, A.
114	安田裕子	第二言語の学習と教育はいかになされるか?ー社会文化的文脈と時間的プロセスのなかで達成される自己変容への着目	2014年9月	日本心理学会第78回大会(公募シンポジウム)、同志社大学	北出慶子・田一華・上川多恵子・サトウタツヤ・山田人士
115	安田裕子	時間と状況のなかでパーソナリティを捉える TEA (複線径路・等至性アプローチ)ー実践的方法論としての可能性の拡がり	2014年10月	日本パーソナリティ心理学会第23回大会(自主企画シンポジウム)、山梨大学	三田地真実・荒川歩・松本玲子・豊田香・田代裕一朗
116	安田裕子	複線径路等至性モデル (TEM) の実践と展開ー『ワードマップ 複線径路等至性アプローチ (TEA)』刊行に向けて	2014年10月	日本質的心理学第11回大会(シンポジウム)、松山大学	福田茉莉・豊田香・鈴木美枝子・滑田明暢・能智正博・塩浦暲
117	安田裕子	児童期の性的虐待被害とその回復をめぐる法と心理	2014年10月	法と心理学会第14回大会(ワークショップ)、関西学院大学	松本克美・村本邦子・金成恩・後藤弘子
118	安田裕子	分岐点での関わり・援助を考えるーボーダーを超えて、TEA で捉えられる、人のライフの変容と維持	2014年11月	対人援助学会第6回年次大会(企画ワークショップ)、立命館大学	サトウタツヤ・伊東美智子・和田美香・北出慶子
119	安田裕子	保育者同士の対話を促すツールとしての複線径路・等至性アプローチ (TEA)ー保育カンファレンスの新たなデザイン	2015年3月	日本発達心理学会第26回大会(ラウンドテーブル)、東京大学	中坪史典・香曾我部琢・境愛一郎・刑部育子
120	安田裕子	成人のアイデンティティの変容と発達を示す社会的支援の介入のタイミングの検討ー質的研究法 TEA を分析の枠組みとして	2015年3月	日本発達心理学会第26回大会(ラウンドテーブル)、東京大学	豊田香・勝谷紀子・森本真由美・曾山いづみ
121	徳永留美	Interaction of color-defined and luminance-defined motion signals in human visual cortex	2014年5月	Vision Science Society, Florida, USA	Kuriki I., Hongfei Xie, Tokunaga R., Matsumiya K., Shioiri S.
122	徳永留美	人の顔色の色名と想起される色についての研究	2014年10月	法と心理学会、関西学院大学	篠田博之
123	徳永留美	照明光の色の変化による液体の色知覚と透明感	2014年11月	立命館大学アトリサーチセンターデジタル・ヒューマニティーズ拠点セミナー、立命館大学	
124	徳永留美	人の顔色の色名と想起される色の対応について	2014年12月	第2回東京法と心理研究会、成城大学	
125	徳永留美	顔色のカラーネーミングと想起される色の一致性について	2014年12月	東北大学・電気通信研究所共同プロジェクト研究会「物体の表面属性の視知覚に関わる脳内メカニズムの研	篠田博之

				究」(共催：新学術領域「質感脳情報学」), 東北大学	
126	徳永留美	目撃証言の顔の色の表現と想起される色についての研究	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会, 立命館大学	篠田博之
127	徳永留美	クラスタ分析による日本語自由色名の最適カテゴリ数の検討	2015年1月	日本視覚学会冬期大会, 工学院大学新宿キャンパス	栗木一郎, 武藤ゆみ子, 徳永留美, 福田一帆, Delwin T. Lindsey, Angela M. Brown, 内川恵二, 塩入 諭
128	篠田博之	視覚と光	2014年11月	H26 年度電気関係学会関西連合大会	篠田博之
129	篠田博之	The effect of color and velocity on vection	2014年	ACA2014	Yamaguchi, M., Seya, Y., & Shinoda, H.
130	篠田博之	Comparison of color discrimination on a display measured under different illumination conditions	2014年	ACA2014	Tsukamoto, T., Shinoda, H., & Seya, Y.
131	篠田博之	Color management of display for the exact same color appearance under different illuminations	2014年	ACA2014	Kurita, N., Shinoda, H., & Seya, Y.
132	篠田博之	Effects of depth cues on vection	2014年	ECVP2014, Perception, 43-suppl. 42	Seya, Y., & Shinoda, H.
133	篠田博之	Brightness perception in daylight office with scene	2014年	ECVP2014, Perception, 43-suppl., 163	Tanaka, R., Shinoda, H. and Seya, Y.
134	篠田博之	Colorimetry-free color management system for displays	2014年	APCV2014, i-Perception, 5-4, 317	Kurita, N., Shinoda, H. & Seya, Y.
135	篠田博之	The effect of color on vection	2014年	APCV2014, i-Perception, 5-4, 331	Yamaguchi, Y., Seya, Y., & Shinoda, H.
136	篠田博之	The effects of a first person shooter game on cognitive task performance	2014年	APCV2014, i-Perception, 5-4, 301	Seya, Y., & Shinoda, H.
137	稲葉光行	A 事件における情状鑑定	2014年5月	KTH 研究会	稲葉光行
138	稲葉光行	医療現場におけるノットワーキング	2014年6月	KTH 研究会	稲葉光行
139	稲葉光行	The Grounded Text Mining Approach as a New Technique for Mixed Methods Research: From an Analysis of a Focus Group Interview on Cancer Disclosure with Japanese People	2014年6月	2014 International Mixed Methods Conference	Mitsuyuki Inaba and Hisako Kakai
140	稲葉光行	第1回国際ミックス法学会参加報告	2014年7月	KTH 研究会	稲葉光行
141	稲葉光行	Session 2: Circling around texts and language: towards 'pragmatic modelling' in Digital Humanities (by Cristina, Marras; Arianna, Ciula) and Computational Models of Narrative: Using Artificial Intelligence to Operationalize Russian Formalist and French Structuralist Theories (by Sack, Graham Alexander; Finlayson, Mark; Gervas, Pablo)	2014年7月	Digital Humanities 2014	Mitsuyuki Inaba(Chair); Cristina, Marras; Arianna, Ciula (1st presenters); Sack, Graham Alexander; Finlayson, Mark; Gervas, Pablo (2nd presenters)
142	稲葉光行	多言語・多文化時代の取調べと可視化	2014年7月	国際シンポジウム「取調べと可視化—新しい時代の取調べ技法・記録化と人間科学—」	稲葉光行
143	稲葉光行	テキストマイニング手法を用いた供述調書の分析	2014年8月	関西白研究学会	稲葉光行
144	稲葉光行	Implementing and Evaluating Collaborative Serious Games for Japanese Cultural Learning in 3D Metaverse	2014年8月	Replaying Japan Again: 2nd International Japan Game Studies Conference 2014	Mitsuyuki INABA, Michiru TAMAI, Kenji KITAMURA, Ruck THAWONMAS, Koichi HOSOI, Akinori NAKAMURA, and Masayuki UEMURA
145	稲葉光行	Japanese Culture in 3D Metaverse	2014年8月	Replaying Japan Again: 2nd International Japan Game Studies Conference 2014	Title: Japanese Culture in 3D Metaverse Presenters: Mitsuyuki Inaba, Michiru Tamai, Kenji Kitamura, Ruck Thawonmas, Koichi

					Hosoi, Akinori Nakamura, and Masayuki Uemura
146	稲葉光行	Children-Centered Learning Community and Collaborative Activity for Social Improvement	2014年9月	The 2nd International Conference on Lifelong Learning for All 2014 (LLL 2014)	Mitsuyuki Inaba
147	稲葉光行	A Possibility of A Mixed-Methods Inquiry for Re-examining Criminal Procedures in Japan	2014年10月	The 8th East Asian Psychology and Law Conference	Mitsuyuki Inaba
148	稲葉光行	A Trend of DH Research on Japanese Arts and Cultures: From Literary and Linguistic Computing to Digital Scholarship	2014年12月	5th International Conference of Digital Archives and Digital Humanities	Mitsuyuki Inaba
149	稲葉光行	A trend of DH research in Japan: Cultivating a new tradition of digital scholarship	2014年12月	1st International Symposium on Digital Humanities of Ajou University, South Korea	Mitsuyuki Inaba
150	稲葉光行	複合的媒介人工物としてのビデオ作品がもつ意味 —平成26年度八幡子ども会議委員による市長提言を事例として—	2015年2月	教育工学会「学習支援環境とデータ分析／一般」研究会	伊藤大輔（金沢工業大学）、稲葉光行（立命館大学）
151	稲葉光行	Children-centered Learning Community and Collaborative Activity for Regional Development	2015年3月	UCLinks Conference 2015	Mitsuyuki Inaba
152	松本克美	児童期の性的虐待被害をめぐる損害賠償請求訴訟と時の壁	2014年5月	日本法社会学会2014年度学術大会	松本克美
153	松本克美	建築瑕疵訴訟の到達点と課題—住宅の安全確保と被害回復の観点から—	2014年5月	欠陥住宅被害全国連絡協議会第36回大会	松本克美
154	松本克美	児童期の性的虐待被害と民事損害賠償請求権のく時の壁>問題	2014年10月	法と心理学会第15回大会	松本克美
155	松本克美	宅地被害の法的責任 — 自然力競合事案における不法行為責任 —	2014年11月	欠陥住宅被害者全国連絡協議会第37回大会	松本克美
156	松本克美	児童期の性的虐待被害からの回復とく時の壁> — 釧路PTSD等訴訟を契機とした法解釈論・立法論の課題	2015年1月	札幌法と心理研究会	松本克美
157	稲葉光行	対人支援における国際連携の可能性	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	松田亮三・吉田甫・谷晋二・村本邦子・小泉義之・稲葉光行
158	中村正	修復と回復—対人援助の新しい問題	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	森久智江・菅原直美
159	谷晋二	伴走的支援の実際	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	望月昭・荒木穂積・竹内謙彰
160	由井秀樹	小児科医の出産への接近—戦前・戦中期日本における未熟児医療の展開から	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	由井秀樹・金森京子
161	福田茉莉	医療スタッフが抱える「困難性」に関する語り：生活困難者を「支える医療」共同研究プロジェクトの実践から	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	福田茉莉・松田亮三
162	サトウタツヤ	法／医療現場における質的研究のあり方とTEAの位置づけ（2）	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	サトウタツヤ・福田茉莉・木戸彩恵・安田裕子・中妻拓也・若林宏輔
163	木戸彩恵	Fukushima の記号論的意味づけの変容過程	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	木戸彩恵・サトウタツヤ
164	金成恩	韓国におけるDV加害者矯正・治療プログラムの取組みとその効果	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	金成恩
165	上村晃弘	議事録の3次元可視化の試み	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	上村晃弘
166	斎藤進也	視覚的アーカイブ管理手法に関する考察と制作	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	斎藤進也
167	東山篤規	体性感覚による水平床面の決定	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	東山篤規
168	箱岩千代治	「音読・計算」活動が高齢者の日常生活行動に及ぼす影響について	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	箱岩千代治・後藤玲子・下本由香里・中辻英克
169	後藤玲子	「音読・計算」活動を長期に継続した高齢者の日常生活動作に見る学習効果	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	後藤玲子・箱岩千代治・下本由香里・中辻英克
170	クァク・ジョンナン	日本と韓国における「手話言語法」制定をめぐる課題	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	クァク・ジョンナン

171	星野祐司	手がかりの種類が自伝的記憶の特定性に与える影響：単語・写真・匂いの比較	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	星野祐司・林明日香
172	西田勇樹	洞察問題解決における内生的促進と外生的促進	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	西田勇樹・服部雅史・織田涼
173	篠原真紀子	障害児者運動における社会包摂——連帯がもたらした恵那地方の「障害児」就学運動（1970年代）	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	篠原真紀子・立岩真也
174	渡辺克典	ヘイト・スピーチにおける包摂／排除の基礎理論研究	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	渡辺克典・堀田義太郎・安部彰
175	堅田香緒里	母子世帯の子育ての困難をめぐる重層的要因の検証	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	堅田香緒里・村上慎司・橋口昌治・村上潔
176	イム・ドクヨン	マイノリティと公教育	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	イム・ドクヨン・中村雅也・梁陽日・大野光明・北村健太郎
177	望月昭	「学生ジョブコーチ（SJC）」による障がいのある個人に対するキャリア支援—仲間支援設定の効果—	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	望月昭・中鹿直樹・朝野浩・中妻拓也・土田菜穂・小島遼・渡辺舞・立花周太・吉尾玲美・水野しおり
178	竹内謙彰	新しい発達診断法開発の試み	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	竹内謙彰・荒木穂積・中村隆一
179	岡部茜	韓日における家出した若者の生活困難状況とその支援	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	岡部茜・山本耕平
180	木下大輔	不登校経験者への援助論再考	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	木下大輔・北村真也・中村正
181	徳永留美	目撃証言の顔の色の表現と想起される色についての研究	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	徳永留美・篠田博之
182	中田友貴	応用心理学としての法と心理学の歴史構築 ～J.H.ウィグモアの生涯	2015年1月	立命館大学人間科学研究所年次総会	中田友貴・若林宏輔・サトウタツヤ

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	人間科学研究所アドバンスト研究セミナーVol.4「社会福祉の国際比較研究の方法をめぐって —ソーシャルワークのレジーム類型を中心に—」	衣笠キャンパス	2014年6月	20	
2	人間科学研究所アドバンスト研究セミナーVol.5「障害のある児童・生徒の継続的支援のための情報共有の仕組みについて」	衣笠キャンパス	2014年6月	30	対人援助学会・R-GIRO 研究プログラム「対人援助学の展開としての学習学の創造」
3	人間科学研究所アドバンスト研究セミナーVol.6「規範理論と実証理論の対話に向けて—リパタリアン・パターナリズムを題材に—」	衣笠キャンパス	2014年7月	20	二十一世紀文化学術財団学術奨励金「リパタリアン・パターナリズムは堅牢か？—規範理論と実証理論の対話のために—」
4	人間科学研究所アドバンスト研究セミナーVol.7「供述分析法セミナー」	衣笠キャンパス	2014年7月	20	
5	人間科学研究所アドバンスト研究セミナーVol.8「新たな支援の類型を求めて—伴走型支援をめぐって—」	衣笠キャンパス	2014年10月	20	文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究」
6	生存をめぐる制度・政策 連続セミナー「障害／社会」第1回「障害者権利条約の成り立ちと位置づけ」	衣笠キャンパス	2014年5月	50	立命館大学生存学研究センター
7	生存をめぐる制度・政策 連続セミナー「障害／社会」第2回「障害者権利条約と国内法整備」	衣笠キャンパス	2014年6月	50	立命館大学生存学研究センター
8	生存をめぐる制度・政策 連続セミナー「障害／社会」第3回「障害者差別解消法の仕組み」	衣笠キャンパス	2014年7月	50	立命館大学生存学研究センター
9	生存をめぐる制度・政策 連続セミナー「障害／社会」第4回「障害者権利条約の国内的実施と障害者政策委員会」	衣笠キャンパス	2014年10月	50	立命館大学生存学研究センター
10	生存をめぐる制度・政策 連続セミナー「障害／社会」第5回「中国における障害者権利条約をめぐる取組み」	衣笠キャンパス	2014年10月	50	立命館大学生存学研究センター
11	「精神分析と倫理」研究会第1回「発達障害」をめぐって	衣笠キャンパス	2014年7月	20	立命館大学生存学研究センター
12	「精神分析と倫理」研究会第2回「発達障害」論の深化のために	衣笠キャンパス	2014年12月	20	立命館大学生存学研究センター

13	「精神分析と倫理」研究会第3回「発達障害」：社会と臨床のつなぎ	衣笠キャンパス	2015年3月	20	立命館大学生存学研究センター
14	国際学術企画「生存学の社会学」	衣笠キャンパス	2014年7月	20	立命館大学生存学研究センター
15	TEA 東京研究会 第4回 (科学研究費 基盤研究 (C)「ライフとキャリアの変容・維持過程の記述—臨床と教育に生きる質的研究法 TEM」)	ハロー会議室四谷	2014年5月25日	33	
16	福岡 TEA 研究会 (科学研究費 基盤研究 (C)「ライフとキャリアの変容・維持過程の記述—臨床と教育に生きる質的研究法 TEM」)	TKP博多駅筑紫口会議室	2014年7月26日	19	
17	福岡 TEA 研究会 2nd (科学研究費 基盤研究 (C)「ライフとキャリアの変容・維持過程の記述—臨床と教育に生きる質的研究法 TEM」)	TKP博多駅筑紫口会議室	2014年9月20日	15	
18	TEM 実践体験ワークショップ TEM 未来等至点ワークショップ (科学研究費 基盤研究 (C)「ライフとキャリアの変容・維持過程の記述—臨床と教育に生きる質的研究法 TEM」)	東京キャンパス	2015年1月10日	27	
19	シンポジウム「外国にルーツをもつ子どもとデジタル教科書のあり方を考える～ICTを活用した学習支援と教育保障～」	キャンパスプラザ京都	2014年5月	100	トヨタ財団国際助成プログラム企画「フィリピン系の子どもたちの未来を切り拓くグローバルな教育支援モデルの構築」・R-GIRO 研究プログラム「電子書籍普及に伴う読書アクセシビリティの総合的研究」(IRIS)
20	国際シンポジウム「取調べと可視化—新しい時代の取調べ技法・記録化と人間科学—」	朱雀キャンパス	2014年7月	100	文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究「法と人間科学」・R-GIRO「文理融合による法心理・司法臨床研究拠点(法心理・司法臨床センター)」
21	第3回 健康と医療の人文・社会科学研究会	衣笠キャンパス	2014年8月	10	
22	第4回 健康と医療の人文・社会科学研究会	衣笠キャンパス	2015年1月	10	
23	第27回法心理・司法臨床セミナー 講演「性犯罪捜査・公判の現状と課題—被害者の心理にどう向き合い、どう伝えるか」	朱雀キャンパス	2014年9月	30	立命館大学法心理・司法臨床センター
24	ユースワーカー養成公開研究会「ユース・スタディーズ(若者学)構築に向けて」	京都市中京青少年活動センター	2014年8月	70	公益財団法人 京都市ユースサービス協会
25	ワークショップ「コンピュータを用いた描画プロセスの定量的分析」	衣笠キャンパス	2014年9月	30	文部科学省科学研究費補助金(基盤研究 C,25380903)
26	ピクチャーブック・ヒーリング 絵本とJAZZのコラボレーションイベント(東日本・家族応援プロジェクト in 宮城 2014)	石巻市	2014年10月	100	立命館大学大学院 応用人間科学研究科
27	「家族のかたちシンポジウム—里親制度・生殖医療/多様な家族を形成するための関係機関との連携と協働に向けて」	島根県職員会館多目的ホール	2014年11月	200	島根県
28	国際会議“Health Policy and Politics in Diversifying Societies: Asian and Global Issues”	衣笠キャンパス	2014年12月	50	立命館大学国際地域研究所 世界政治学会比較医療政策部会(IPSA, RC25) 日本学術振興会・科研費(26285140)
29	「音と絵本のコラボレーション」イベント	アートエリア B1	2014年12月	100	京阪電気鉄道株式会社 共催アートエリア B1
30	絵本読み聞かせ電車	嵐電車内・嵐山駅	2014年12月	100	京福電気鉄道株式会社
31	研究ワークショップ「健康と平等の規範理論」	衣笠キャンパス	2014年12月	50	立命館大学生存学研究センター
32	ピクチャーブックヒーリング(東日本大震災復興支援チャリティイベント)	銀座十字屋	2015年1月	100	株式会社銀座十字屋・学校法人明星学園
33	人間科学研究所 年次総会(兼「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究」プロジェクト公開研究会)	衣笠キャンパス	2015年1月	100	立命館大学生存学研究センター・R-GIRO 研究プログラム「対人援助学の展開としての学習学の創造」・R-GIRO 研究プログラム「文理融合による法心理・司法臨床研究拠点」

34	研究会「フランス医療史研究コロキウム」	衣笠キャンパス	2015年2月	20	
35	研究会「自閉症スペクトラムのアセスメントをめぐって－ADOS,ADIR,VINELAND の日本語版の開発と紹介－」	衣笠キャンパス	2015年2月	30	
36	男性介護ネット6周年記念式典・第7回総会	衣笠キャンパス 他	2015年3月	200	男性介護者と支援者の全国ネットワーク

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）					
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間	
1	野田正人	全戸訪問事業の法的根拠と意義について	大津市大津っ子みんなで育て愛事業研修会	2014年5月9日～	
2	野田正人	児童虐待防止と地域社会の役割	滋賀県レイカディア大学必修講義	2014年5月9日～	
3	野田正人	問題行動をくりかえす児童生徒の背景を見立てた有効な支援について	京都府総合教育センター「校長講座」	2014年5月9日～	
4	野田正人	児童虐待防止と地域の役割	滋賀県レイカディア大学草津校必修講座	2014年5月9日～	
5	野田正人	子どもの気になる行動と保護者へのかかわり	東近江市保育協議会総会 愛東コミュニティーセンター	2014年5月10日～	
6	野田正人	関係機関を取り巻く状況と関係機関連携のあり方	京都府まなび・生活アドバイザー連絡協議会講義	2014年5月22日～	
7	野田正人	要保護児童対策と児童委員の役割	三重県志摩市主任児童委員研修会	2014年5月29日～	
8	野田正人	いじめへの対応	大阪府中河内地区公立小・中学校生徒指導研究会記念講演 柏原市市民文化会館	2014年6月12日～	
9	野田正人	児童虐待に対する学校教職員の対応について	宇治市教育委員会研修会	2014年6月19日～	
10	野田正人	虐待の理解と支援	H26年度滋賀県立精神保健センター困難を有する子ども若者支援に係る研修会	2014年6月20日～	
11	野田正人	ソーシャルワークの視点をもった生徒指導	東大阪市教育委員会教育センター研修会 ユトリート東大阪ホール	2014年7月24日～	
12	野田正人	児童虐待防止と地域の役割	滋賀県レイカディア大学米原校舎	2014年8月7日～	
13	野田正人	いじめ問題への実践的課題	津和野町教育委員会 森鶏外記念館	2014年8月8日～	
13	野田正人	児童虐待と非行における社会的支援	大阪府高石市要保護児童対策地域協議会実務者全体会議 高石市役所	2014年9月22日～	
14	野田正人	子どもの虐待未然防止－地域の見守り	三重県四日市市子どもの虐待及び配偶者からの暴力防止ネットワーク会議 四日市市役所	2014年9月26日～	
15	野田正人	児童虐待とネットワークの役割	長浜市子育て支援研修会 長浜市湖北支所	2014年10月1日～	
16	野田正人	児童虐待と要保護児童対策地域協議会の役割	三重県名張市要保護児童対策及びDV対策地域協議会研修会	2014年11月7日～	
17	野田正人	児童虐待対応マニュアルの作成について	三重県いなべ市児童虐待研修会 三重県いなべ市大安庁舎	2014年11月13日～	
18	野田正人	地域に貢献する保育園づくり	社会福祉法人・日本保育協会、平成26年度理事長・所長研修会、滋賀県大津市びわこホテル	2014年11月27日～	
19	野田正人	児童虐待に関する関係機関の役割分担とその連携について	岐阜県岐阜地域子ども虐待防止研究会	2014年12月5日～	
20	石倉康次	東日本大震災で被災地の福祉労働者が果たした役割に関する調査実行委員会『ここで、歩みつづける』		2013年6月1日～2014年5月31日	
21	松原洋子	『卵子提供－美談の裏側』上映会（対談）	立命館大学衣笠キャンパス	2014年6月7日～2014年6月7日	
22	松原洋子	障害者差別解消法の高等教育機関における障害学生支援への影響－図書館資料のテキストデータ提供を中心に	大学図書館問題研究会第45回全国大会オープン・シンポジウム 「障害者差別解消法の高等教育機関における障害学生支援への影響と、著作権法37条ガイドライン」	2014年8月25日～2014年8月25日	
23	松原洋子	出生前診断、何が問題か－技術・倫理・社会	立命館大阪オフィス講座	2014年12月4日～2014年12月4日	

24	松原洋子	書籍の電子化と 図書館のアクセシビリティ向上	平成 26 年度大阪府図書館司書セミナー	2014 年 12 月 9 日 ～2014 年 12 月 9 日
25	松原洋子	図書館のアクセシビリティ向上—電子書籍の活用を中心	平成 26 年度兵庫県図書館協会第 2 回研究集会	2015 年 2 月 26 日 ～2015 年 2 月 26 日
26	松原洋子	選別される「いのち」—優生学と人間社会	平成 26 年度ジェンダーで社会を考える講座 (新潟市男女共同参画推進センター)	2015 年 3 月 1 日 ～2015 年 3 月 1 日
27	村本邦子	京都新聞現代のことば「母系制社会モン」	京都新聞 2014 年 8 月 21 日夕刊	2014 年 8 月 21 日 ～2014 年 8 月 21 日
28	村本邦子	NHK 京都「京いちにち」ニュース 610 「被災体験を見つめる」取材協力・出演	NHK 京都「京いちにち」ニュース 610	2014 年 10 月 16 日 ～2014 年 10 月 16 日
29	村本邦子	京都新聞現代のことば「物語る力」		2014 年 10 月 24 日～
30	村本邦子	京都新聞現代の言葉「汽水域」		2014 年 12 月 12 日～
31	村本邦子	京都新聞現代の言葉 NY からの 3. 1 1	京都新聞	2015 年 3 月 11 日～
32	安田裕子	研究資金獲得支援セミナー第 1 回 での講師「学振特別 研究員申請セミナー 申請書作成のポイント」	立命館大学 (衣笠キャンパス)	2014 年 4 月 18 日
33	安田裕子	研究資金獲得支援セミナー第 1 回 での講師「学振特別 研究員申請セミナー 申請書作成のポイント」	立命館大学 (BKC)	2014 年 4 月 22 日
34	安田裕子	第 8 回 JISART 非配偶者間生殖医療に関わるカウンセ ラー実務研修 での特別講演「不妊治療者の人生選択」	新大阪丸ビル新館	2014 年 5 月 17 日
35	安田裕子	2014 年度教育発達科学研究科 心理危機マネジメント コース特別企画第 2 回 TEM/TEA 研究会 in 名古屋大 学「複線径路等至性モデル/アプローチの臨床事例への 適用をめぐる」での講演「複線径路等至性アプ ローチの臨床適用を巡って」	名古屋大学	2014 年 5 月 31 日
36	安田裕子	TEM/TEA 研究会 (複線径路・等至性アプローチ) —文 化と言語、自己変容過程の分析— での講演「過程と発 生を捉える TEA」	立命館大学 (朱雀キャンパス)	2014 年 6 月 14 日
37	安田裕子	新学術領域研究「法と人間科学」主催 2014 年度 第 5 回 実務家研修「子どものための司法面接と体験を語る 子どもの心理」での講演「トラウマ体験のある子ども の心理とそのケア」	四天王寺大学サテライトキャンパス	2014 年 11 月 24 日
38	安田裕子	元ポスドクに聞く大学教員へのキャリアパス&座談会 ② での講演「OG に聞く大学教員へのキャリアパス& 参加者が考えるキャリアパス (座談会)」	立命館大学 (衣笠キャンパス)	2014 年 12 月 9 日
39	安田裕子	新学術領域研究「法と人間科学」主催 2014 年度 第 6 回 実務家研修「子どものための司法面接と体験を語る 子どもの心理」での講演「トラウマ体験のある子ども の心理とそのケア」	四天王寺大学サテライトキャンパス	2015 年 1 月 12 日
40	安田裕子	第 2 回「TEM/TEA と言語」研究会での講演「過程と発 生を捉える複線径路等至性アプローチ(TEA)」	立命館大学	2015 年 2 月 7 日
41	安田裕子	日本発達心理学会第 26 回大会 チュートリアル・セミ ナー 新しい発達研究のための基礎講座 での講師「複 線径路・等至性アプローチ (TEA) —過程と発生をとら える」	日本発達心理学会第 26 回大会、東京大学	2015 年 3 月 20 日
42	稲葉光行	2014 年度八幡子ども会議	八幡市ふるさと学習館、八幡市文化センター	2014 年 4 月 1 日 ～2015 年 3 月 31 日
43	渡辺克典	矢吹文敏著『ねじれた輪ゴム』を読む——山形から京都 へ、自立生活運動の軌跡を考える	関西社会学会若手企画部会 第 5 回事前研究 会	2015 年 3 月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	丸山里美	日本都市社会学会	第 5 回日本都市社会学会若手奨励賞		2014 年 9 月
2	丸山里美	現代風俗研究会	第 24 回橋本峰雄賞		2014 年 12 月
3	若林宏輔	法と心理学会	2013 年度法と心理学会発表賞		2014 年 10 月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	山本耕平	ひきこもる若者が実践主体となる支援の哲学・方法・制度の研究	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
2	中村正	虐待が生成する家族の相互作用と関係性の特性についての臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2012年	2015年3月	代表
3	松田亮三	社会包摂的医療に向けたアクション研究:「語り」にもとづく実践と政策形成	挑戦的萌芽研究	2013年4月	2015年3月	代表
4	松田亮三	変動する社会における社会保障公私ミックスの変容—量質混合方法論による接近	基盤研究(B)	2014年4月	2018年3月	代表
5	大谷いづみ	生命倫理学におけるモンスター概念の変遷とその役割—メタファーとしての奇形—	基盤研究(C)	2012年	2015年3月	分担
6	櫻谷眞理子	児童養護施設退所者へのアフターケアと当事者活動の方向性	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
7	秋葉武	政治的流動化過程における日韓NPO	基盤研究(C)	2012年	2015年3月	代表
8	丸山里美	女性の貧困の実証研究に基づく女性福祉の構想—セクシュアリティ概念の再定義を通じて	若手研究(B)	2014年4月	2017年3月	代表
9	丸山里美	GIS活用による地域福祉アクターの情報共有化と多文化社会におけるネットワーク構築	基盤研究(C)	2014年4月	2017年3月	分担
10	サトウタツヤ	三次元地層モデリングを用いた供述過程の可視化システムの構築	新学術領域研究	2011年	2016年3月	代表
11	サトウタツヤ	法と人間科学	新学術領域研究	2011年4月	2016年3月	分担
12	サトウタツヤ	生活史法による臨床物語論の構築と公共化	基盤研究(A)	2012年4月	2017年3月	分担
13	サトウタツヤ	ライフとキャリアの変容・維持過程の記述—臨床と教育に生きる質的研究法 TEM	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	分担
14	サトウタツヤ	原発事故からの被災者と地域の再生に関する総合的研究	基盤研究(B)	2013年4月	2016年3月	分担
15	サトウタツヤ	治療的司法論の理論的展望と日本的展開:当事者主義司法の脱構築に関する学融的研究	基盤研究(B)	2014年4月	2017年3月	分担
16	宇都宮博	成人初期における結婚生活に対するコミットメントの変容過程に関する研究	基盤研究(C)	2013年4月	2017年3月	代表
17	土田宣明	運動抑制の加齢変化・反応タイプの違いに注目して	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
18	土田宣明	地域での高齢者のうつ予防の心理教育プログラムの開発と支援体制の構築に関する研究	基盤研究(B)	2012年4月	2016年3月	分担
19	東山篤規	身体的姿勢によって変容する視空間の特性:斟酌理論に照らして	基盤研究(C)	2011年	2015年3月	代表
20	谷晋二	子どもと保護者のメンタルヘルスを支える教員研修プログラムの開発	基盤研究(C)	2014年4月	2018年3月	代表
21	中鹿直樹	「緩やかな所属による組織活動」におけるキャリア・アップ支援に関する研究	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	分担
22	廣井亮一	「司法臨床」の展開に関する実証的研究—弁護士と臨床心理士の協働をもとに—	基盤研究(C)	2012年	2015年3月	代表
23	矢藤優子	幼児の描画検査におけるコンピュータ自動診断・自動採点システムの構築	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
24	松原洋子	高等教育機関における障害者の読書アクセシビリティの向上:ICTによる図書館の活用	基盤研究(B)	2013年4月	2016年3月	代表
25	松原洋子	視覚障害当事者の共同自炊型オンライン電子図書館を実現するための条件に関する研究	基盤研究(A)	2012年4月	2015年3月	分担
26	増田梨花	保育園における「気になる子ども」の早期支援を目的としたアセスメントツールの開発	基盤研究(C)	2012年4月	2015年3月	分担
27	安田裕子	ライフとキャリアの変容・維持過程の記述—臨床と教育に生きる質的研究法 TEM	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
28	安田裕子	治療的司法論の理論的展望と日本的展開—当事者主義司法の脱構築に関する学融的研究	基盤研究(B)	2014年4月	2017年3月	分担
29	徳永留美	空間の明るさと影の知覚に基づいた明度知覚モデルの構築	若手研究(B)	2014年4月	2016年3月	代表
30	徳永留美	視覚特徴要素信号の脳内でのフローに関する研究	基盤研究(B)	2013年4月	2015年3月	分担
31	稲葉光行	メタバースを利用した日本文化に関する「状況学習」の支援環境に関する総合的研究	基盤研究(B)	2010年	2015年3月	代表

32	稲葉光行	三次元地層モデリングを用いた供述過程の可視化システムの構築	新学術領域研究	2011年4月	2016年3月	分担
33	稲葉光行	子どもを中心とした地域創造のための協働学習活動－活動理論にもとづく研究開発－	基盤研究(B)	2012年4月	2016年3月	分担
34	松本克美	児童期の性的虐待被害者のレジリエンスを支援する時効法改革の提言	新学術領域研究	2014年4月	2016年3月	代表
35	松本克美	大震災・放射能被害復興の居住福祉法学と所有・責任・コミュニティの変容・再構築	基盤研究(B)	2012年4月	2016年3月	分担
36	渡辺克典	病・障害当事者による災害支援活動をめぐる組織間ネットワーク研究	挑戦的萌芽研究	2013年4月	2016年3月	代表

#### 8. 競争的資金等 (科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	稲葉光行	インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究	文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	2013年6月	2016年3月	代表
2	由井秀樹	体外受精研究のフレームに関する歴史研究 -1960～80年代の日本の展開	公益財団法人上廣倫理財団	2015年2月	2016年1月	代表
3	木戸彩恵	化粧品由来の後天的な容貌の問題 (ディスフィギュアメント) と法心理的アプローチによる支援の検討	公益財団法人上廣倫理財団	2015年2月	2016年1月	代表

#### 9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録 (特許) 番号	国
1	篠田博之	眼疲労測定装置	本学以外	その他	2009-012323	2010-167092		

以上